

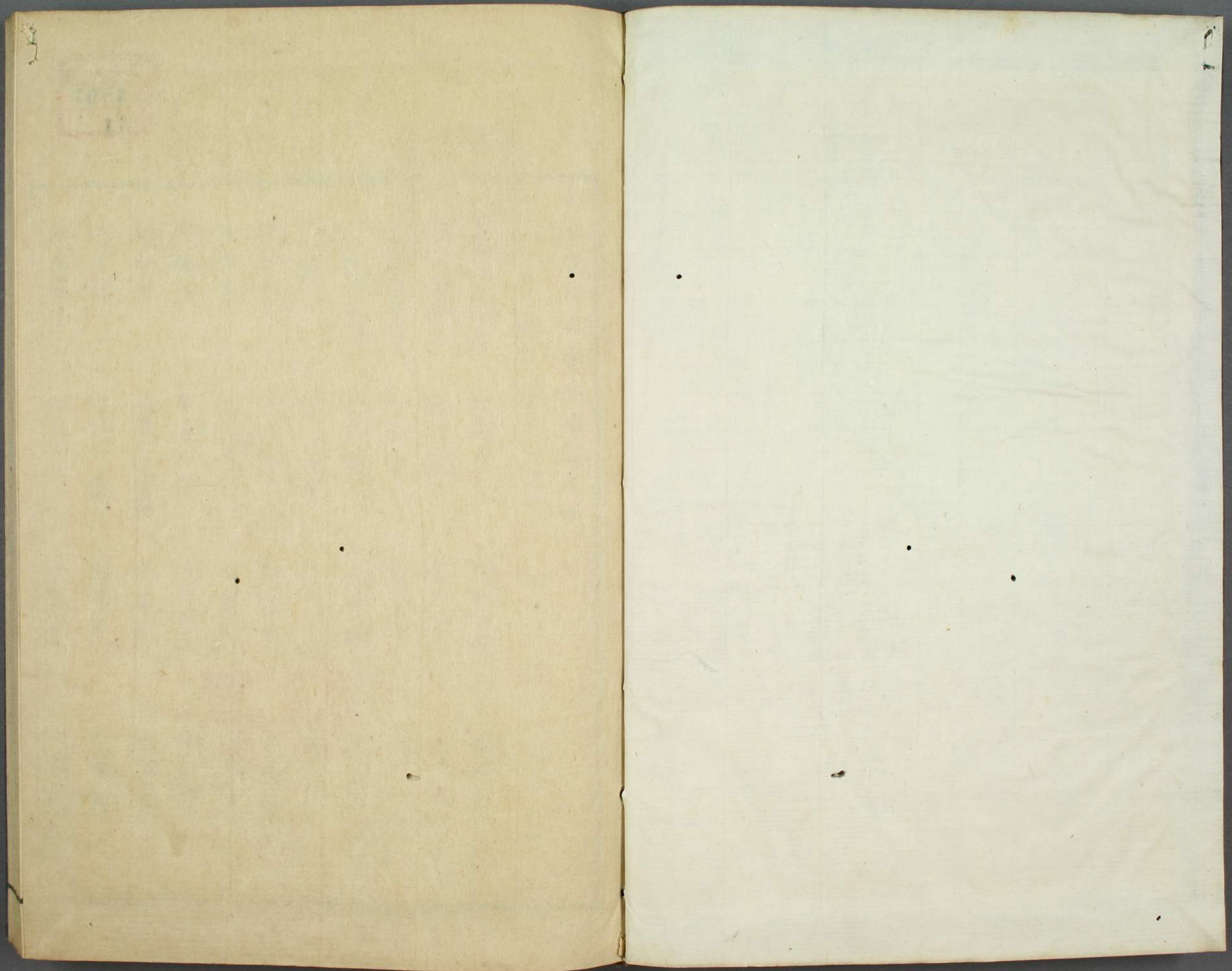
尾張名所圖會

後編

四

ル 4
4597
11





門北4
號 4597
卷 11

尾張名所圖會後編卷之四

目錄 春日井郡下



波刀神社	福嚴寺	曾呂利塚	盛禪和尚道德
旗竿	勝川渡	勝川驛	大光寺
野道風出生地	大永寺	石山寺	高牟神社
山田次郎重忠	中將翁	羊神社	觀音寺
杉村	下方左近傳	矢田川	守山里
長母寺	小幡里	長慶寺	大森寺
法輪寺	淡川神社	良福寺	洞光院
機織池	毛受庄助	川島神社	篠木柏井
龍泉寺	同裏山眺望圖	密藏院	圓福寺
神屋村	弥勒ヶ嶽	馬啼石	内津驛
名産煎茶	内々神社	内津山	玉野川

早稻田大學圖書館
昭和 35. 1 28 覽
藏書

高藏寺	高藏社	鹿乘淵	宗良親王社
志談小僧	勝手明神社	當國山	金神社
感應寺	磯村左近城址	尾張戸神社	東門ヶ滝
眼鼻石	石樋	定光寺	兒岩
蛇ヶ淵	品野村	品野焼陶器	菩提寺
祥雲寺	品野古城	岩屋堂	雲見ヶ峯
三國山嶺	雲興寺	葛筆岩	毘沙門峰
戸越	赤津焼陶器	大目神社	萬徳寺
龍洲	屏風ヶ滝	名産瀬戸磁器	藤四郎古密址
藤四郎傳及肖像	新製漆付焼	六作十作の事	祖母腰土
古密址	陶器土取場	信長公陶工證文と賜ふ圖	宝泉寺
陶器製造の圖	陶祖春慶碑	深川神社	
修驗泰澄院			

春日井郡 下

伊多波刀神社 四樂村にありて今ハ橋と橋後 延喜神名式に伊多波刀神社本國帳に従

三位伊多波刀 一本正四位下板橋とかけり 天神と云々官社あり本國帳集説に俗云

古板面画鳩獻神靈故為號 と云々 境内産く一面の檜林して

神 と云々 末社 愛宕社 勢田社 田跡社 天王社 富士社 熊野社 建部社 神明社 山王社 天道社 秋葉社 あり

例祭 八月十五日辰中刻 神輿津御所へ渡御ありて 津浦と奏次 還御ありて 津浦と奏次 還御ありて 津浦と奏次 還御ありて

里長五とあはれは武修りて流落りての者乗馬して各社修業念もて甲曹と著夫より社修と云々

より流落りて三跡乘りてきて泰信一社ありて其の式あり夫より一の的と云々 津と祈念あり

次に流落りてあはれ津に志をの意修群と 御旅所 神明社

大叢山福嚴寺 大草村にあり 曹洞宗大派 派 是に國森村大洞院末 備中国船木の僧性印和尚靈岳

和尚に隨ひ遠江國小瀬 かむ 文安二乙丑年 帰路の如く 南國野口村

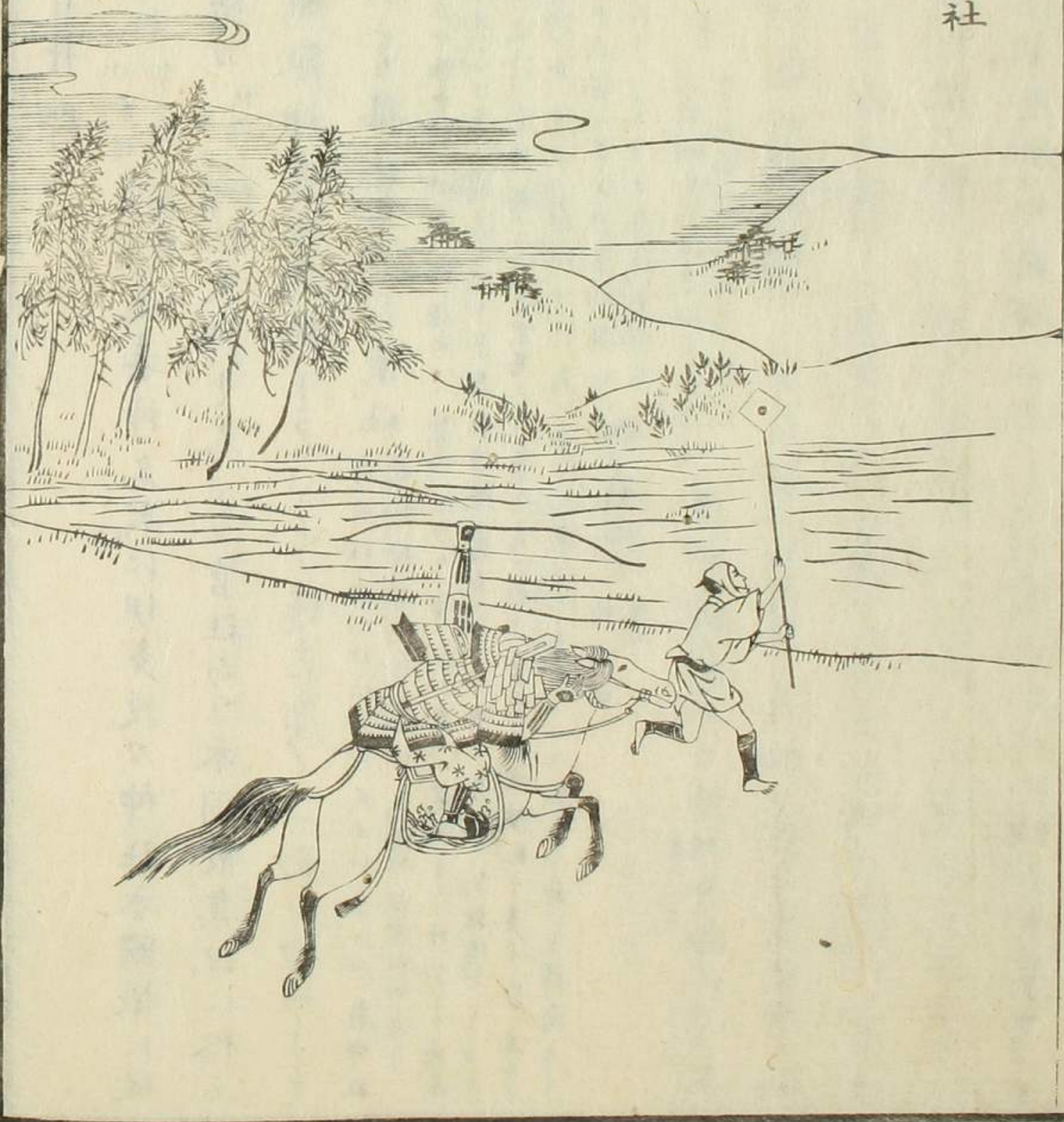
小来り止り茅菴と結ひて寓居す時に隣村大草の城主西尾式部道

永法下の道徳と信ト一寺と創建して住持と名づけく 宝積寺と

よ遠江五周智郡の盛禪和尚くため靈岳和尚小瀬の如家セ

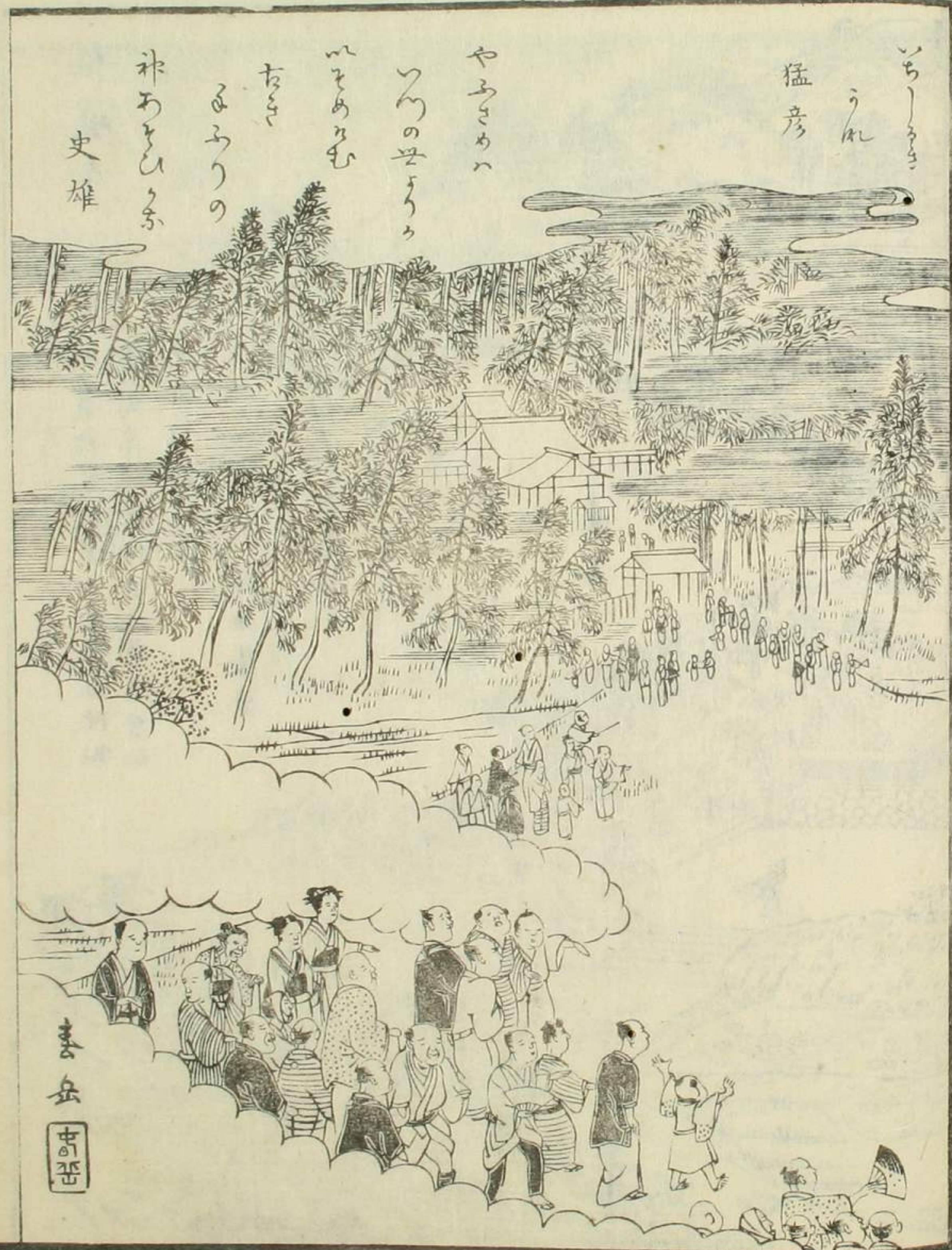
伊多波刀神社

まつく
梅系茂りて
ひろそそせ
八重のさか

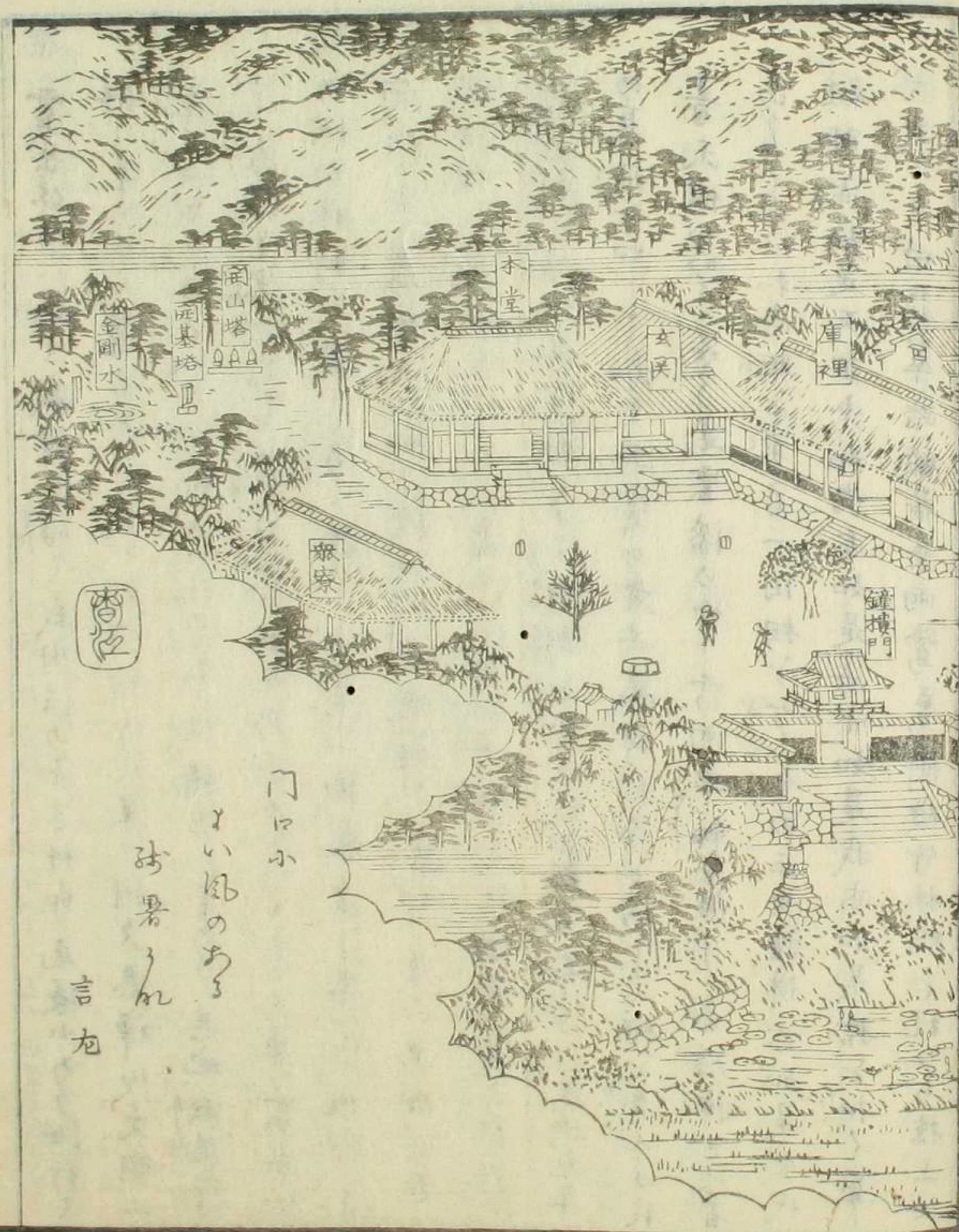


うら
猛彦

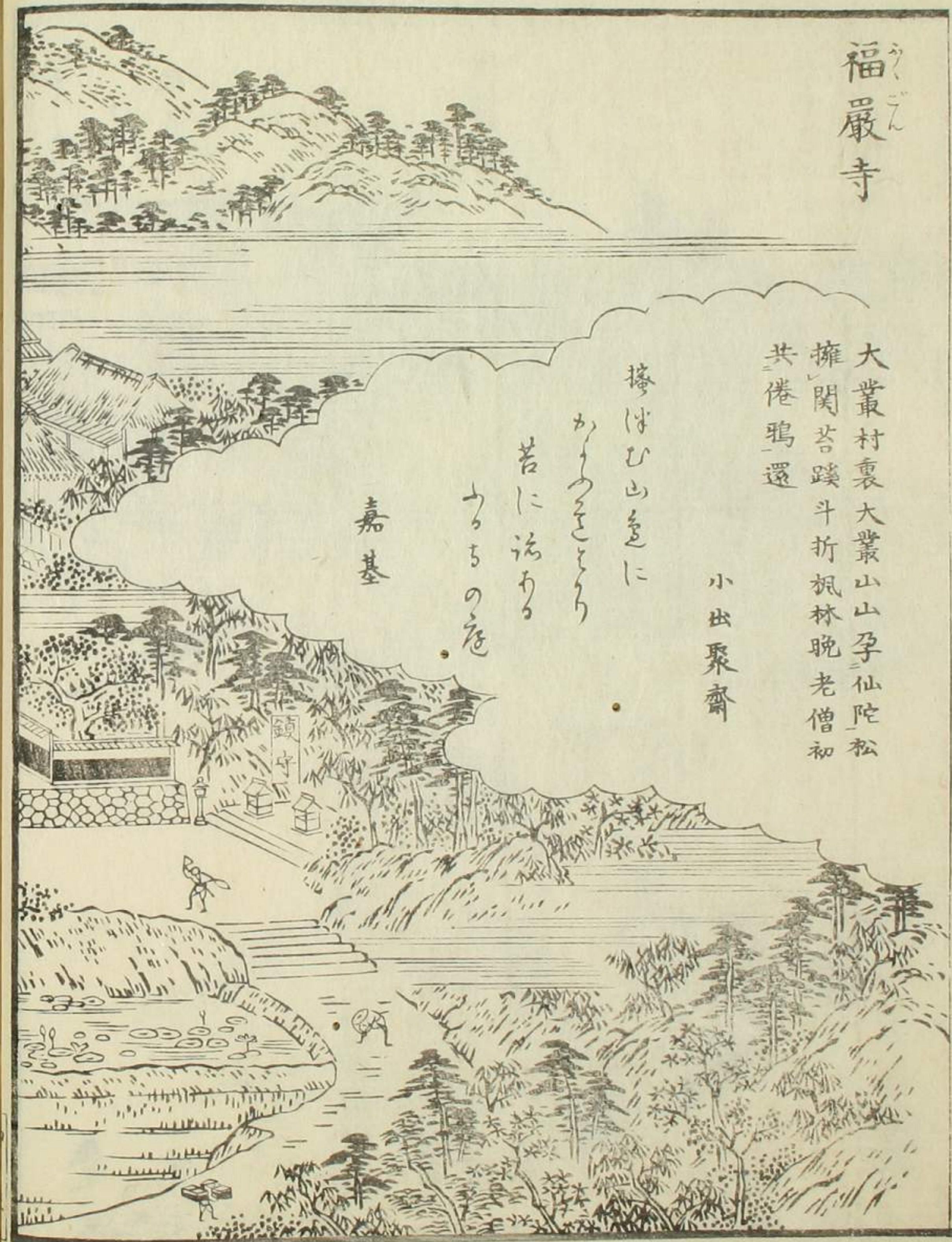
やふさめ
つものせう
いそめむ
たき
ふりりの
神あそひ
史雄



史雄
中野



門口小
よい風のあす
砂暑くね
言丸



福嚴寺

大叢村裏大叢山山孕仙陀松
擁閑苔蹊斗折楓林晚老僧初
共倦鴉還

小出聚齋

接び山色に
かゝるささり
苔に流るる
うららの庭

嘉基



盛禪 和尚の道德火車の怪を退る図
 和尚の道德ハ本文に委一火車の怪とつて俗説ハ
 天正文祿頃の俚諺小あり一幸一毛越後国真沼
 郡雲洞村の雲洞庵十世北高和尚といふも字徳全住
 の高僧にて火車の怪を退け一といひて火車落
 乃落て今も付室とひき一北越雪譜ふより
 天正年間といひる以因る所ハ文祿のころと云共ハ
 怪談ナリ其形容の異同ハ諸説に足らばといふも
 児子の火仲と懸せんが為鳥山石燕が百鬼夜行
 勝川春英が異魔話武可誌といふ俗本ハ
 火車の怪の図ハ妻が折衷一
 画せりあり

善溪

蹟柘本行用とくく物多し下馬札の書道風小始ると云俗説并書
記せる事もわり無秘の言下馬の札は後世の制と云安樂破起
帖と云道風の假名と群書一覽に帖の真本府下清光院に託を
相傳ふ小中内務頭乃風の書より明徴ありと云も筆法の妙あり
二王と攀らう卓純倫あり舊傳蓋訛らざるも云り扶桑略記の真
蹟と唐國へ渡りし事と載せ玉勝留少安元二年 太上天皇五十
の清賀小道風がかり古今集と中宮の清方より奉らせり事と
あるなり又画も妙なり皇朝名画拾彙に多武峯渡因院小庭より
大職冠の神像高野山小坂房に在る勢至の像并道風の画く所と云
り集古十種小真蹟の扁額数品と出次今と畧り後に神小
記り山樺因葛地郊小中庭松坂村より
大日本史曰道風善書通動神逸
冠絶今古歴事 醍醐朱在村上
三朝至正四位下内藏權頭 醍醐
草初擬揭書南門道風大喜曰我之得意全在草書矣 集 又命書行草法帖各一卷使僧
寬建持而往唐蓋欲播其美於異邦也 其殿殿辟題字宮門扁榜道風所書甚多 醍醐
中風而手顫所書彌生寺體 醍醐 菅為福直幹書奏疏 村上帝常置坐側會禁開火 帝額

左右曰直幹之疏存否不復問他十訓抄著因 凡其書一行隻字入競而求之不得者以為耻其
為世貴如此餘後世稱道風與藤原佐理藤原行成曰三跡 國とわらわりの期長の能書と云
の事ハ教百部の古書にありはるに略述と云文化十三年五月ハ村の
隣村松坂村ハ此社の境内小中庭の碑と建つ銘文ハありはるに略述

壽昌山大永寺

大永寺村にあり昔洞宗
丹波國村雲村回光寺也

建久元庚戌年尚玉菱地の願主

山田氏の初建少く壽昌院といひ天台の古刹あり
無任國師道跡
考に山田次郎

重忠居本州春日井郡山田庄小鑿田後建久八年三月重忠
因先考重滿十七回忌建壽昌院今大永寺是原天台宗と云

兵火小堂舎佛閣灰燼ありと檀越山田氏の一族等これあり
住虎小大永寺村大永寺ハ古寺
の旧源あり川村の産國因

聖大永元年伽藍と再造して舊貫に復し
丹波の洞光あり 栢院

勢守時常大永二年に再建しと云あり山田氏の
山田氏の裔孫ありといひ傳へられしあり

和尚と云はる中興開山と天台と改りて今れ宗と云の院号
を山号と云ふなりと云ふあり

和名ありと云ふあり 勅賜大永寺号と云ふあり
開山栢悦道根和尚ハ大北
寂ナ 知幻禪師の号と 勅謚ありふの徳を奉聞 勅許と傳へるあり

寛永寺と云ふありと云ふあり 勅許の例ありと云ふあり
かくて岡田
氏宮司村 或ハ宮地ともあり

大永寺村の古名く 少く三百九十名の田地と寄附と云ふあり

大永寺
小野道風出生地

聯璧偶談
曾自松川出異才書
家三迹獨居魁怒蛙
攀柳工夫長渴驥追
風草聖閣下筆過題
能得意寫經繡帛欲
成堆帝祿殘奏殊奇
絕避火時隨石右朱

岡田延之



ち願天心の須没収日

小橋の傳之岡田と其子孫の事
當りの權越みら天正十二年
と門守位雄公の勅札

を多し教書に遺り

堂宇も衰廢せしと交長の末
伊奈備守

檢地の時由緒あり古ふるに
寺領のうら若干と附

一岡田伊勢守も造管を加
什物おと寄附せしをかくて
東照宮

の津社とて又天満宮
あちかしりの社と境地の外に
まうりて

鎮守とて
あちに岡田氏代の位押かり
美濃神主の傳

寺室
天満宮の一軸ハ管公の自
画賛あり此堂の松樹陰より
伊勢守

西天山石山寺
附村あり天台宗也因密院
末定元年中道田上人の開基
をま

あり所謂石山寺無量寺
福田寺光藏寺光善寺と
なり一旦荒廢して石山寺の名

高牟神社
田村ありはありと
延喜神名式に高牟神社

本國帳に従三位高牟天神
一本正四位下
高見天神
例祭 八月廿五日
神幸り

音橋の道記 あり山と云ふ所ありて流ありと云々也
守山の里れ名のおおむねいよもはつに油と云ふ所 尊海僧正

靈鷲山長母寺 因村のうら本ヶ崎あり 臨濟宗京都東福寺末 高倉帝の治養三巳亥年山田次郎

源重忠其母の菩提のうらに建之 觀勝法師より開山と云ふ 源に

父のるに長父寺より遠之 今廢してありのしゆり 天台の乃坊より大伽藍あり 今廢してあり

淨く破壊せりと弘長三年無任大田國師尚山に未任あり 今の宗あり

無任國師道跡考に師諱ハ無任字ハ一田別に道曉と号後嘉祿二年丙戌十二月廿八日卯時相州瀧倉にて誕生後推原景時の末裔なり父の爰に以後は里小生れり人ハ大果被の者なりと告ぐ人ありと云ふ爰に後嘉祿元年十三歳壽福寺に入て奉役と初むに治元年十五歳下野の伯母が許へり四年十六歳常州へりて親族小まらるる寛元元年十八歳常州法考より剃度して一田と号次大凡は弘長三年の名徳大半國東に任次師則三井の田幸教王坊法格小被て俱舎論頌疏と聽受す寛元四年二十歳法身坊上人に在り法華玄義と佛向を此年剃度の師法音寺と譲す建長五年廿七歳師素より三学兼修の志ありに任坊より律院とあり同年世良田の長樂寺に行て景朝上人の就て釈論と聽採す建長六年廿八歳道世の才より速き七年廿九歳園城寺に上り交道坊上人に就て止觀と結する其より南都小行て五六歳のる律學と景次弘長元年三十五歳又關東へ下り壽福寺非願長老の座下りて四子院と号座禪小志はあふ一年も滿ざるに脚氣の病起りて坐禪心の住せば弘長二年三十六歳元末密教相傳の志はあふ和州善提山に上りて留り東寺三寶院一流の事相悉く是と傳へり法相宗の法門も直に東福寺住り國師と拜して天台の漢頂谷の合行秘密灌頂と傳へ大日經義釈菩提心論永嘉集宗鏡録等とす日夜教として教外の禪旨に參攷弘長三年三十七歳本州木ヶ崎

靈鷲山長母寺に奉り任じ弘安五年五十七歳沙石集十卷と著す弟子無尽道證と云ふ受亦和西方寺に於て持行は書今に至りて盛に天下小行り僧俗を妙と云ふは後世と云ふはあはれいけいけのちのちの天下のりて中々ありて高僧衆と云ふは云月の初壽と祝する後物と云ふは徳者なり小者に授け給ふにありて於りて今に於て坊局に其流の河多し法華經と用ハ所謂狂言詩語の業と云ふは讚佛乘の因轉法輪の縁とありんとのと云ふは永仁三年六十九歳善提山に上り加持土沙三斛三斗と取來り山内小敬一布く此山に葬る所の七灵得脱の爲なり云安元年七十四歳聖財集三卷長母寺にてこれと著し其後蓮華寺に於て誦經收仍て今現に長母寺の蔵にありて云安二年七十五歳妻鏡二卷と著す弘安三年滿八十歳寺内金剛幢院に於て難談集十卷これと筆次弟子慈眼と云ふ受て本州万徳寺にて持行は師と無翁に譲りて内尾軒に退隱し自ら尚徳と云ふ 尚徳は持行の字なり 西和元年壬子八月十日遠偈と述て曰一漚淨海八十七年 風休浪靜依舊湛然泊然して入定はと云ふ 天文十五年大田國師と稱すかくて在任のうら伊勢の桑名郡益田村の蓮華寺と善華寺と四十餘年任職のうら常に熱田宮と信ノ教と云宮ありて大井も師の道德と仰ぎりて五種の宝と云宮にありて今に多く散失せりてソレ傳へり其中の一品と云唐躑躅と云名木ありむりあり人け本と云て庭前に植へに忽ち乱れり云元のゆかりと云ふ因果物語に云いり國師入定の後益善茶と云堂舎僧坊覺と云ふ秀吉公に没収せりて是利織田家の家附ありても頗も廢り任教坊舎

兵火小なり大破に及びしと政秀寺の関山沢彦和尚奉りて再興し其
 後又微くして衰へしと近世是鑑し僧来住坊舎と管し其
 や旧貫に復せし之折當山矢田川の中に入りてり川の中あり大
 門前を流ししが明和四年の山つあに當山真中と押流して自ある川
 筋ありちの後と流し門前平沙ありたり昔より遠いて一山
 多と左右にお對し○本尊 阿彌陀 俗に關山堂といふ國師自作の依法の
の木佛 影堂 肖像と安置し 勅益大田國師の
古字と 觀音堂 聖觀音と安置 安んずるの作 宝篋印塔 元禄九年 國師の浄土進んで建てる
塔内に鑑真律師持来の佛舍利三粒と
 安置は其時の導師大和 鎮守五社明神 境内西の 方なり 勢田社 門外西の方なり 大正無
任の道徳と云ふ未詳
今に浄幸山と移依 山神社辨財天社鐘樓寄生樹 中門とて東の方に柱
何の枝も移りある本の芽と生はれ當山の名木なりとて名傍へ定めた地なり此所の本は
紀州の山とて其化しありとて山林に灵地とて本の葉も花もと替はる人
を誘ふと云ふ治りて其馬と門前につまに彼馬 寺堂 北殿司画の十六羅漢とてり關山
教匠の各と云ふを思はれれり 寺堂 自筆の書教あり其外諸家
の流世寄進
 小幡里 八心氏と尾張名稱と賜りし由續日本紀に云ふは日部小幡村と云ふは所なり

榮松山長慶寺 同村にあり藤清宗都が福と山田次郎直忠父母及び兄の菩提のりらに山田
庄のうちに三ヶ寺といふ長又も母も其父も名づけり
 興舊山大森寺 大森村にあり隆正宗 京都智恵院末 寛永十一年二月十二日 瑞竜院君の浄宣
 母歡喜院殿花林紅春禪定尼 吉田 氏女 江戸にてかきとりて其菩提の
 たりに同十四年傳通院の境内に一字の精舎と建てる歡喜院と
 名付たりと寛文元年六月任信大電信誓和尚の命よりしては
 大森村の寺と管舎と管建し今れち寺に改りたり梵刹なり
 ○本尊 阿彌陀 俗に關山堂といふ國師自作の依法の
の木佛 常念佛堂 本尊の末あり元禄三年浄宣とて不斷念佛と
云ふと云ふ一神と云ふに納めたりぬ

佛日山法輪寺 同村にあり曹洞宗白坂雲母寺末住古ハ尼傍地とて西宗菴といふと天文
三甲午年 雲母寺の大雲和尚再建し堂宇の衰廢と修造し普香山に法ち
と名づけ曹洞の法地と信じて同族のうちに同寺ありて修りたり安永三年八月今の
山よりなりて改め善教地支殊普賢の三像ハ仁師運喜の作也依及次信田忠修の母光明院
玉菟昌蓮尼の寄附之友信忠信元ハ陸奥國信夫郡の人依及庄司元活の子とて義経朝臣に
様所との合戦に軍ありて兄弟ハ壽永三年三月十八日八島とて教匠の矢先にかりし文活

大森寺



香印

興奮山深積
翠濃蕭然物
象感心曾古
墳猶見風雲
氣不怪當年
產巨龍

鈴木真庵

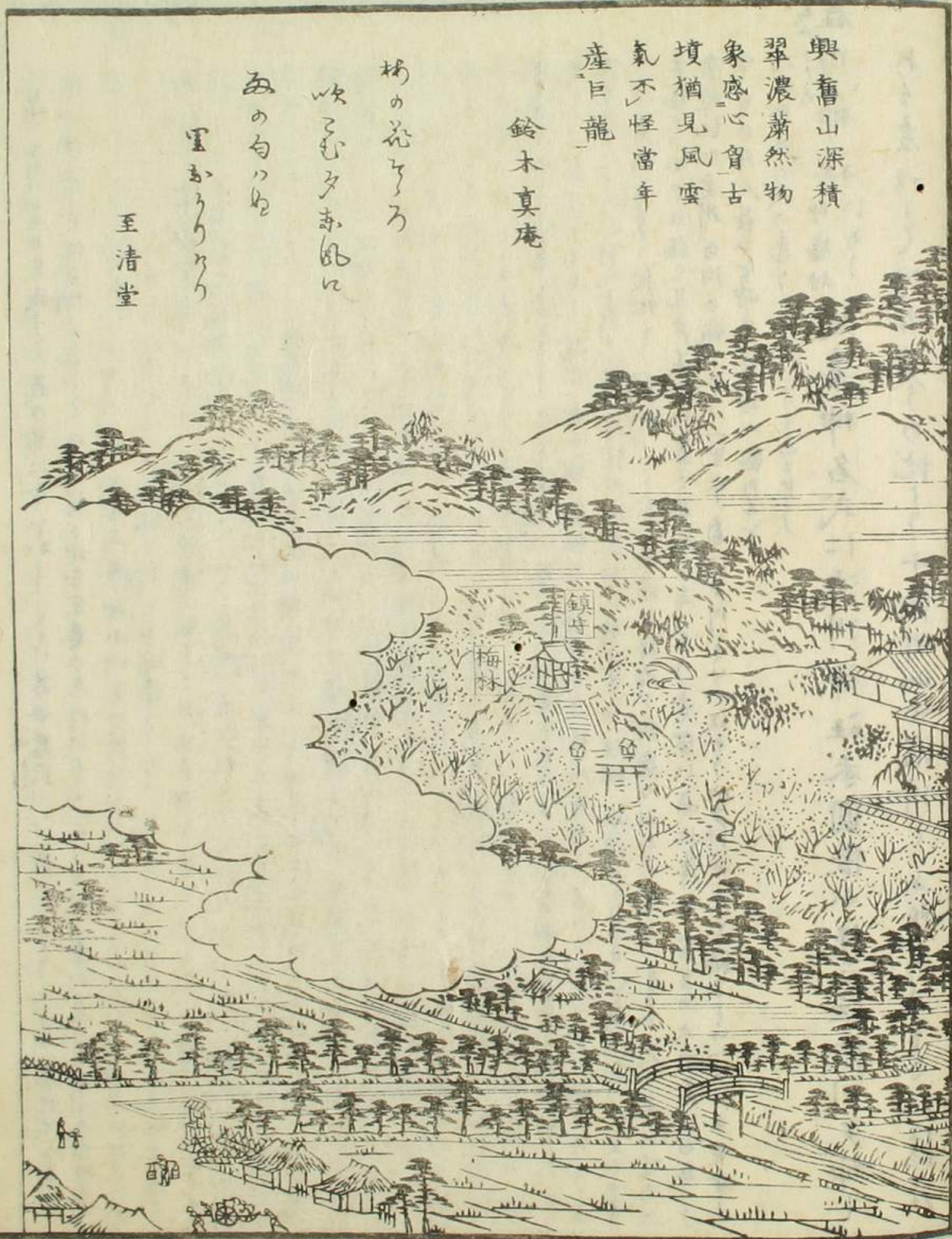
樹の花さる

吹く夕赤風に

あけの白つゆ

里かうりりり

至清堂



龍泉寺

遊龍泉寺

去年曾說龍泉寺
今年思遊龍泉寺
月天濃綠已凝
初夏景勝勞猶
帶暮春妍不懶
老約看花伴却
愛同聽入塢鶯
作夢山僧來致
意沙莊久矣賦

詩仙

陳元贊



香印

遊松洞山

日本諸國編

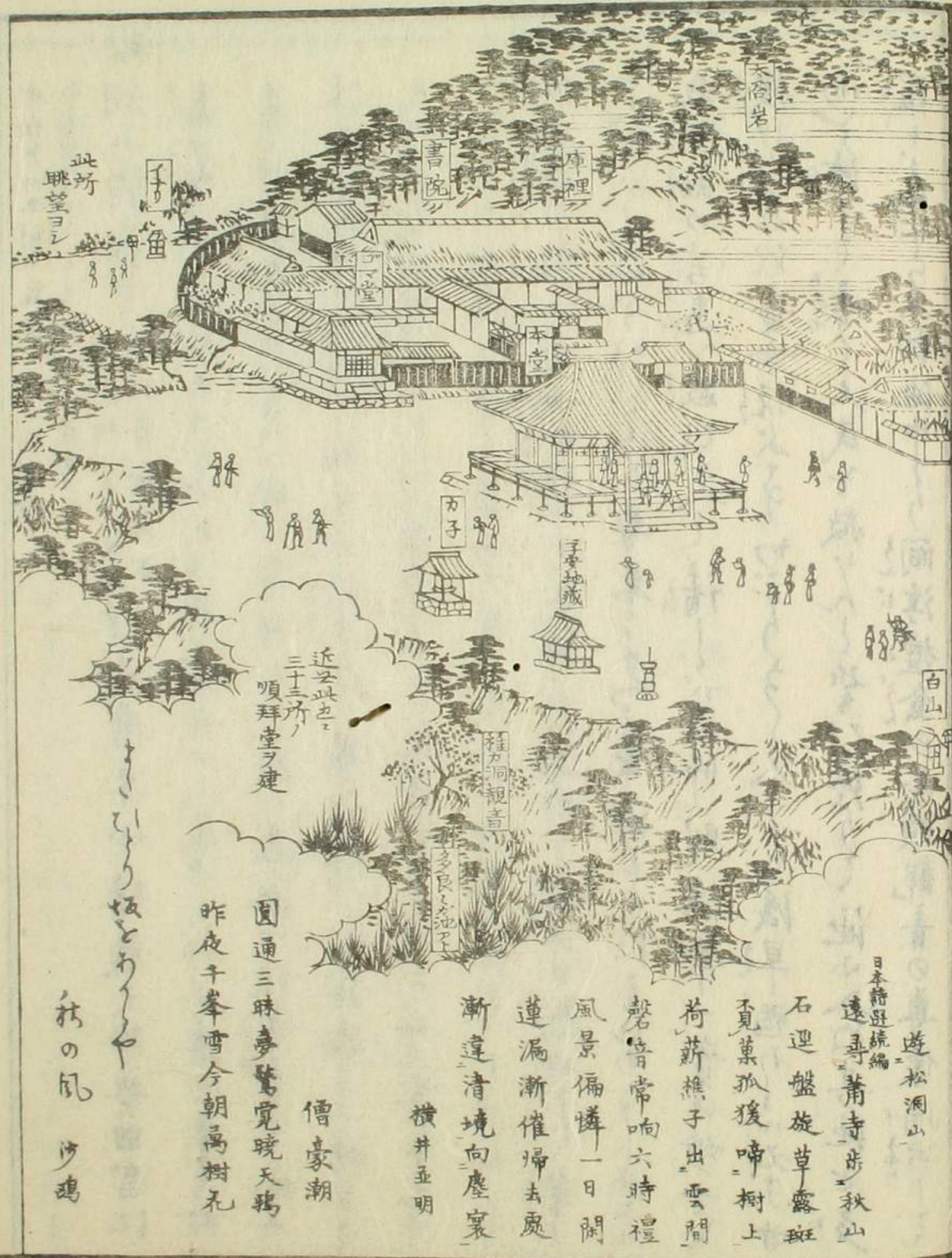
遠尋蕭寺步秋山
石迴盤旋草露斑
覓菓孤猿啼樹上
荷薪樵子出雲間
磬音常响六時禮
風景偏憐一日閑
蓮漏漸催歸去處
漸違清境向塵寰

橫井並明

僧家潮

圓通三昧夢覺曉天鴉
昨夜千峯雪今朝萬樹花

林の風 沙鷗



六角岩

此所眺望ヨレ

近空此也 三十三所 順拜堂ヲ建

中切也四五村の庄号なり和名抄
なり及びてそのに四五庄号なり

松洞山龍泉寺

吉根村にあり天古宗
建田密院末

延暦年中傳教大師熱田宮に

奉_ま童_ごとして修法ありしがあつた童女一人奉り大師小達て告_つし曰
是_こより東北ふりしとる地小童泉あり我_が其他小童女_ごら_の師の
法恩と_しけ_しく_も水_み無生と澄_みせん思_ふ小預_りく我_が為_す一妙白と
志_しり_しる_にか_りり_しる_に忽_ち然_るして_んず_るら_ぬ大師其_を女_が
ソ_レに_跡と_尋て_あ山_の西南_の池_{あり}て_其中_{より}
俄_に小浪_と起_り童女_が現_れて大師_{より}つ_らつ_ら前_の日_熱田_とて_驚り
ま_のつ_らつ_らに_今の_も尋_らり_まつ_る奉_りま_つる_にま_の紫_とて_此上_に
我_累劫_の苦_患と_救ひ_ます清_く大師_則法_華一_實の_妙音_と
授_けら_ると_此童_女悦_ぶる_にわ_らり_まつ_る今_{より}後_早魁_わら_ば甘_み
而_と津_とて_普く_人民_と救_れん_と誓_ひ終_りて他_小入_ぬ其他_と多_く
羅_らる_に他_とら_ぬ相_他中_{より}簡_淨檀_金の_馬頭_觀音_の尊_像漏_出して

側_らる_に椎_の木_の梢_小花_を包_りま_つる_に大師_感喜_の思_ひと_り茅_堂とい

く_あり_其像_と安_置せ_りと_て後_に移_り本_寺と_造之_る青_神威_力と

本_尊と_崇め_る童_泉寺_と名_づく沙石集に尾張國重山寺にひり童王の一夜のうらにつらりて供をせり寺より

夜_有け_しと_墮ら_ばら_ると_あら_まり_其跡_を修_り馬_頭觀_音と_名づ_く又_は小_かり_まれ_り

ん_と熱_田の_舊記_{あり}と_熱田_の池_の内_院に_八釵_{あり}と_三釵_{あり}と_此池_の内_に分_けに

と_百ヶ_日修_りけ_りに_日毎_{一人}の_童子_奉り_て橋_く簡_伽の_水と_奉り

大師_わら_りと_て童_子を_ゆら_とん_と送_りけ_りふ_け山_の禁_席れ_多羅_々が

池_小入_ぬ大師_{より}つ_らつ_ら童_神より_とる_事と_はら_り夫_らり_結夏_のあ

り_いけ_山に_十な_とあ_られ_り彼_觀音_の金_像と_供養_り結_願の_日熱_田の

神_を折_束り_て堂_の南_小植_まち_お奉_るの_まら_りと_て其_神

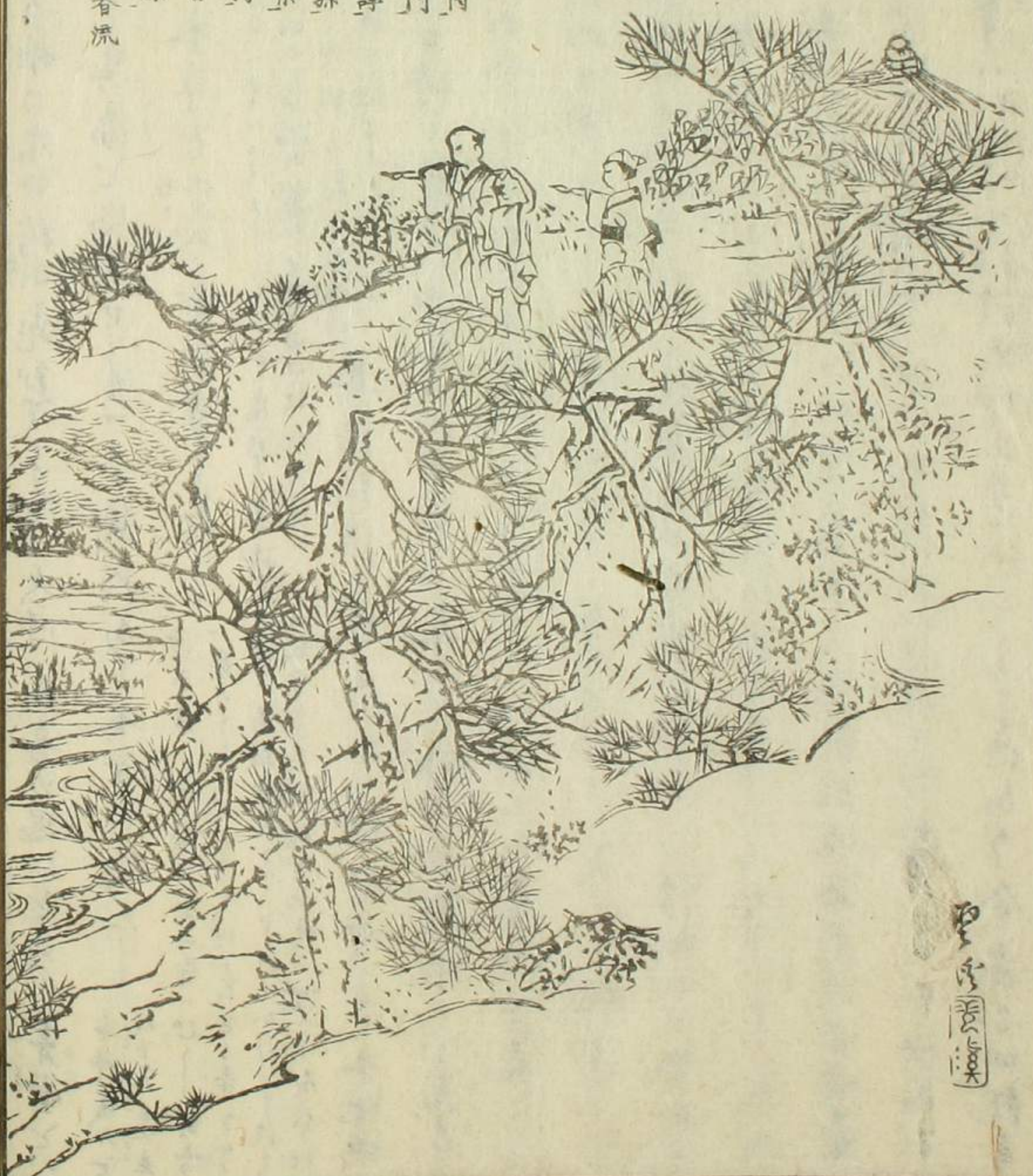
枝_葉茂_りて_今に_遠ま_り此_の小_池と_傳教_弘法_{あり}大師_の開_基

と_原今_百友_の夏_まり_とあ_らし_い四月_{五日}と_{七月}六_日と_け山_小

池_のま_らり_と小_弘法_{大師}の_まの_例あり_との_{あり}今_尚も_四觀_音

龍泉寺
裏坂の
眺望

釣虎詩集
聖地冠邦内
久開八石門
鷲山猶境靜
宿寺更香蘇
一室攝多景
小窓臨萬村
忘歸游十日
莫笑似王孫
清水春流



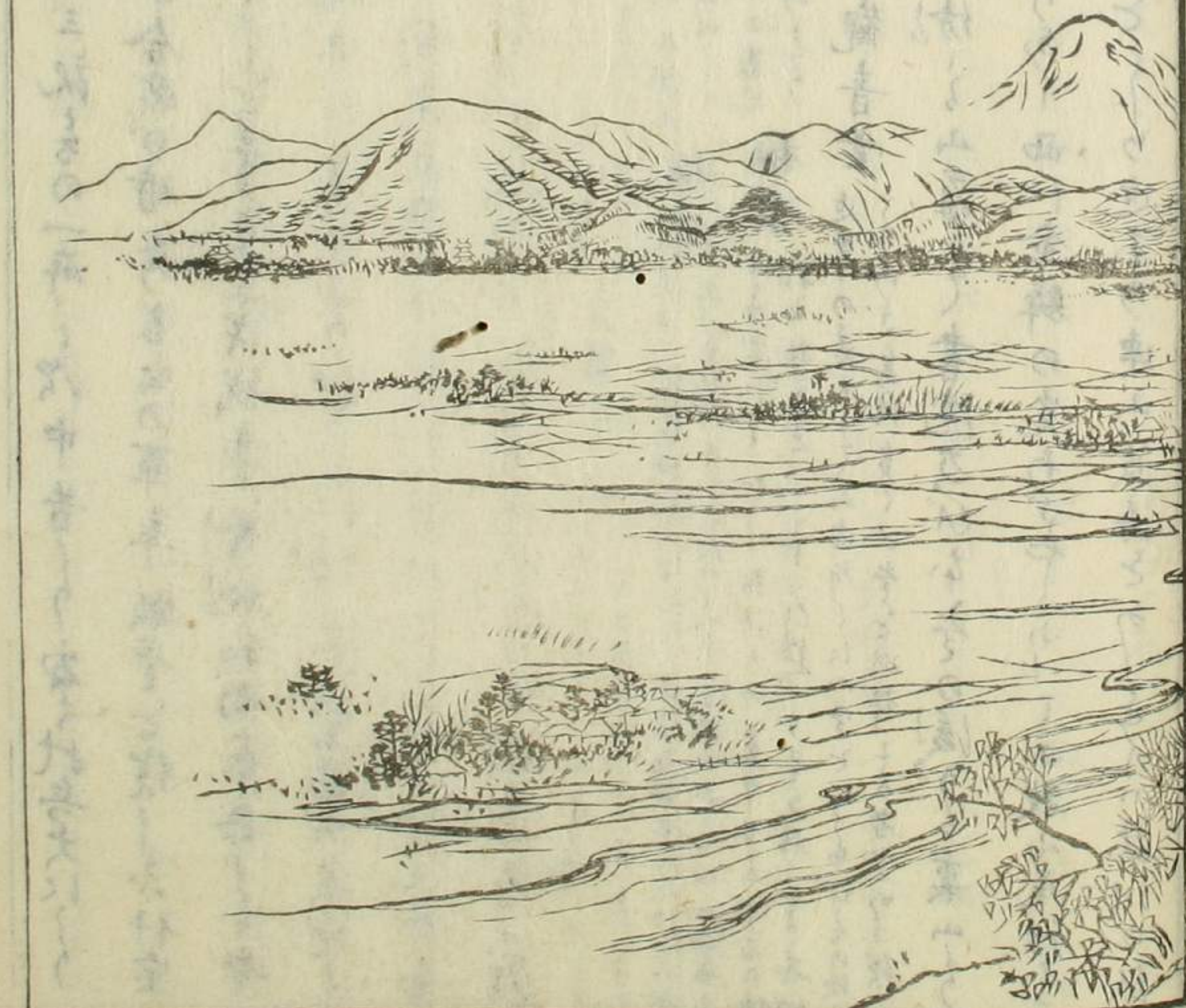
龍泉寺

遊龍泉寺

古石層苔細 庭長白雲高
簪花玉 柳間僧一鉢一瓶
句謁佛三十三處堂玉野
清流分派脈金城夕照帶
輝光此間閑說稱松洞即
覽衣襟添翠香

村田梅邨

山と水と
下小す
かすむり一目
二十ニ夕村梅居



密藏院



暮春經龍泉
寺至野田家
藏院途中口
院內堂壁有記
壬寅年數子來
游者余亦其一
人也餘皆歸泉
下僅存者余與
蘭亭而已可不
慨然乎因句中
謂之云
千鳥臣



香印

とやうんと怪しむ事限り或は是と考へ解さ諸人告て
猿山王権現の使者炬ハ般若の智火と必天台の言傳来りて衆
生の迷闇を照すといひ居りしが慈州上人 大神宮の承現より
てけ村小来りさればすまは大徳のありきとていふ人々悦び
ありて嘉暦三戊辰年當ちと建ま一七堂伽藍と營みし
寺傳及び三國傳記本朝高僧傳等に及りて近諸本の僧侶
来りて慈州の法と云ふ者日々に多く尾沼尾濃三河を以て渡河
信濃飛騨伊勢播磨肥後おまの土佐に未ちお來りて當ちの指揮
をうけ奉りしが中昔の乱世の善行通ひとて善玉の未ち断絶し
しと尾濃のうらふらふ當ちの流下に屬し未ちくる寺院今程百と起
りし作當ちの傳法と葉上派或ハ藤本源と稱するまハ慈州上人
京都建仁寺の葉上僧正子東西 國師の傳と四頭房尊辨小文て禪密兼
學の一流當ちの開權と與りて

名つゝ當ち其規法
と云はれり

兼帶一も尊壽院小住一當ちに代僧とて寺務と監せ

一〇本尊葉師かまきと内陣に阿彌陀
の木像あり共に冥佛なり如法院元三大師きと稱し慈州僧
正自作の真像と安置す元福

元戊辰年公の許許と傳く名を天台宗のハチにうつし二月の寺と巡り傳物
を就一行法と傳し國師の安全と祈り念生厭の結縁と云はれ東叡山元三大師の
像と月毎に滿ちと是て山内の寺灌頂堂慈覺大師の刻り大日如來の像と安
置す未ちの僧徒はちに来りて灌頂受
戒と經藏古跡

灌頂井當部林村の慈州院と俗に當ちの泉院と云ふとに灌頂井と
稱す開山松松村のりて慈
州上人のまき

寺宝慈州上人奉天供と傳し赤財天女石上か新向
後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通十六羅漢画像一幅獅子香炉一箇花鳥金
屏風一雙以上の教品

塔頭むつし三十六坊ありが乱世に廢絶し今もつふ
五院と存修吉祥坊常林坊善明坊常泉坊福泉坊

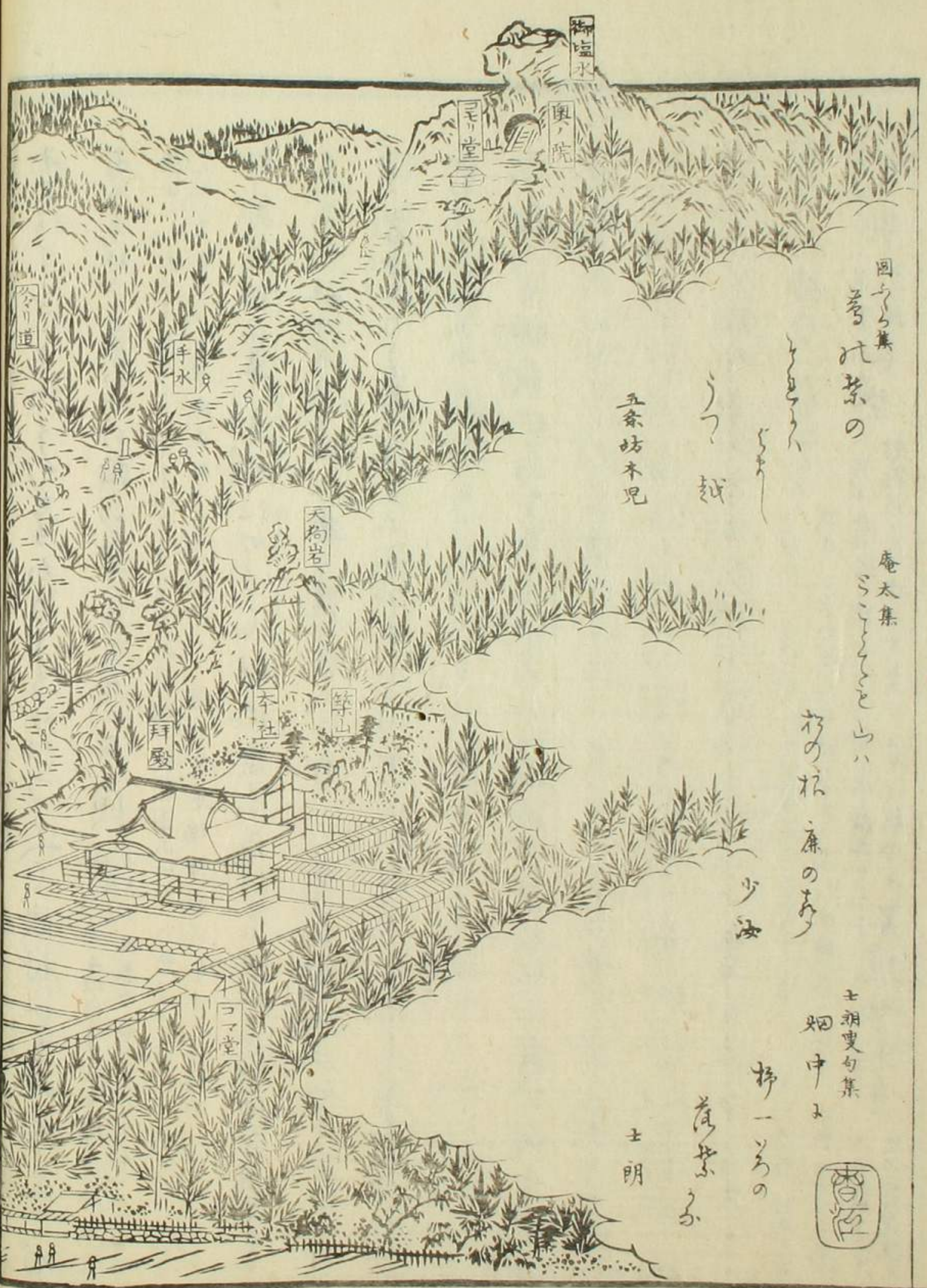
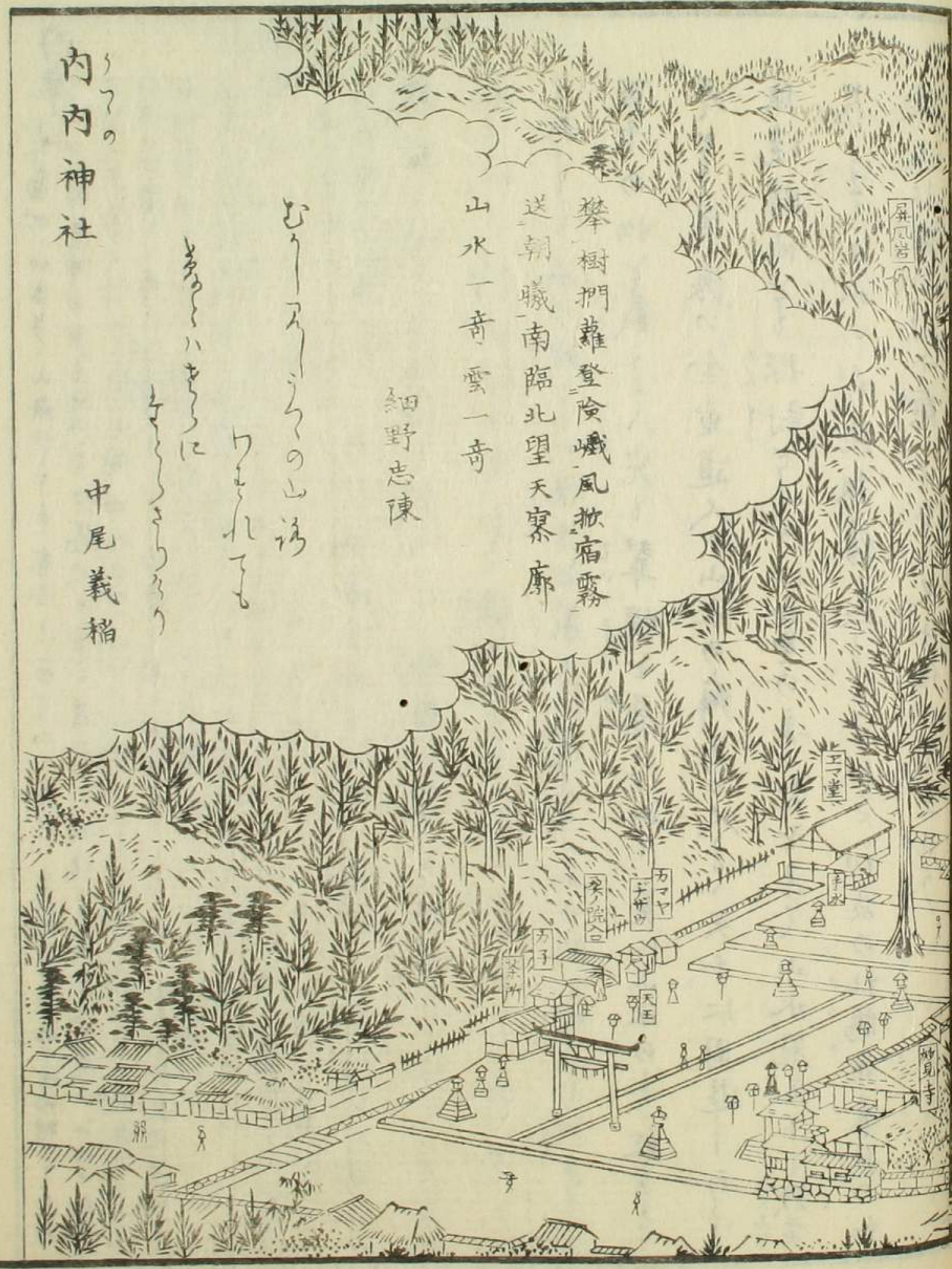
内内神社

中尾義楯

びりーんじんの山
つたれも
とま〜ハ〜に
とま〜ハ〜に

攀樹門難登險巖風掀宿霧
送朝職南臨北望天窠廓
山水一奇雲一奇

細野志陳



園々集
考此紫の

庵太集

杉の根 麻の糸

士朝叟句集
畑中よ

柿一ツの

五条坊木見

うつ 越

少法

士明

落葉ふ



内津山

内津山 内津の夕嵐... 又隣村外系山ハハ山ハ山脈...

玉野川

玉野川 玉野川の南定老木の待崩山に接水...

清流砂を帯びて練とけ... 石の垣... 百千の松と藪... 翠幌と展...

東極山 東玉野 遊故遊携 侶出塵纏 奇巖競秀 導雲

外通水 争流 怪石前 嘍巖情堪志 本末殊 樵翁訝 掛

花のそ... 花のそ... 花のそ... 花のそ...

獲... 獲... 獲... 獲...

燈明山高藏寺

燈明山高藏寺 寺の霊像... 其淵より龍燈を...

照繪筆
 戊戌八月廿一日同
 春江梅居遊于玉野
 兩山相對而高聳
 澗水下其間是玉野
 川也澗水深處涵藍
 宜棲龍蛇淺處屬堪
 可以涉而清潔堪濯
 纓矣山水之奇絕幾
 駭人目也賦五言小
 詩十五章聊以形容
 焉然何足以抱歎于
 山靈水伯乎
 秋光媚我進鞋
 遠且詠且吟倉
 卒詩行到屏風
 巖下看山逾競
 秀水逾奇



百侍



玉野川
 高岩
 小屏風岩
 香



仰觀哉
 小俯暇淚
 淚水俯仰
 看見了山
 水之骨髓
 百信



其二
 峰屋大岩より
 橋々瀬に下り

香



香

跋步山魚水
未遊玉野川
山水之奇絕
沉疴頓覺痊

百信



百信

玉野川下流
鹿乘洲
大鼓岩
獅子頭



尾張戸神社
當國山



かみせみきあま
すあまをとりし
玉の玉玉の沖
二村表房



山や秋竹
ついでに
右

金神社

上水北村のしり小金山ありて今白山と稱す延喜神名式に山田郡金神社本國帳に從三位金天神と云ふ古名ありて此神の法を承るるにゆゑ小令し呼ばれり

小金山感應寺

同前村の陳麻宗 昔掛村の光寺也

當古小金山の宮寺より行基井の

開創其後星雲と稱す寺傳も云々元祿の頃の住僧董

園梨古き木牌一枚とさぐり得るる行基井開基の記に

どけりて開山の名を知り其頃如得子が書く同山木牌記に洋

より又云々此の記に略次 如得子の元祿の改に寓居せり

開田梅雨前山秋月橋邊紅葉 大平暮雪 東谷松風 幽溪清泉

東谷の松風と東門の鐘とを合し幽溪の清泉と園守の麻袴其時

本尊 正觀元年馬頭不空獨索如意滿土面の古軀を安置す共に行基の

作佛之其冥結して一尊を感得す其時一尊を感得す其時一尊を感得す

昭士不動毘沙門又其服の 天照大神春日の神像を安置す

磯村左近城址 因村にあり人志に水北村の人伝ふ小伝あり

尾張戸神社 當山に 天香語山命 天火明命 建稻種命

尾張氏の祖神より延喜神名式小山田郡尾張戸神社本國帳に從三

位尾張戸天神とあり古社なるを近世俗に東谷大明神と稱す 國祖

君の清時け山を敷きて古き後の桶を掘りしに流りて當玉明神

と稱す其時け山を敷きて古き後の桶を掘りしに流りて當玉明神

貫の地なる事ありて東谷の當玉の神と稱す

稻龜院君清時誓約の折りけ社を清尋りて式内尾張戸神

社今當玉明神と稱す 啓せり玉皇と稱す今城の鬼

門とありて清時け山と稱す

社傳小之 末社中の社記に菊理姫命南の持記に伊弉諾尊を奉りて

東門の滝 水北山のうらまふ山ありて此所の社に水北川を穿て岩の穴を

のけき自然の穴あり大石あり是等の所に川水せられて白玉と稱す

又又山に下りて筆捨山と稱す東海夜の筆捨山に彷彿する名づく

小おとぬ終意あり

磯村左近城址

因村にあり人志に水北村の人伝ふ小伝あり

尾張戸神社

當山に 天香語山命 天火明命 建稻種命

尾張氏の祖神

より延喜神名式小山田郡尾張戸神社本國帳に從三

位尾張戸天神

とあり古社なるを近世俗に東谷大明神と稱す

國祖君の清時

け山を敷きて古き後の桶を掘りしに流りて當玉明神

と稱す

其時け山を敷きて古き後の桶を掘りしに流りて當玉明神

貫の地

なる事ありて東谷の當玉の神と稱す

稻龜院君

清時誓約の折りけ社を清尋りて式内尾張戸神

社今當玉明神

と稱す 啓せり玉皇と稱す今城の鬼

門とあり

て清時け山と稱す

社傳小之

末社中の社記に菊理姫命南の持記に伊弉諾尊を奉りて

東門の滝

水北山のうらまふ山ありて此所の社に水北川を穿て岩の穴を

のけき自然

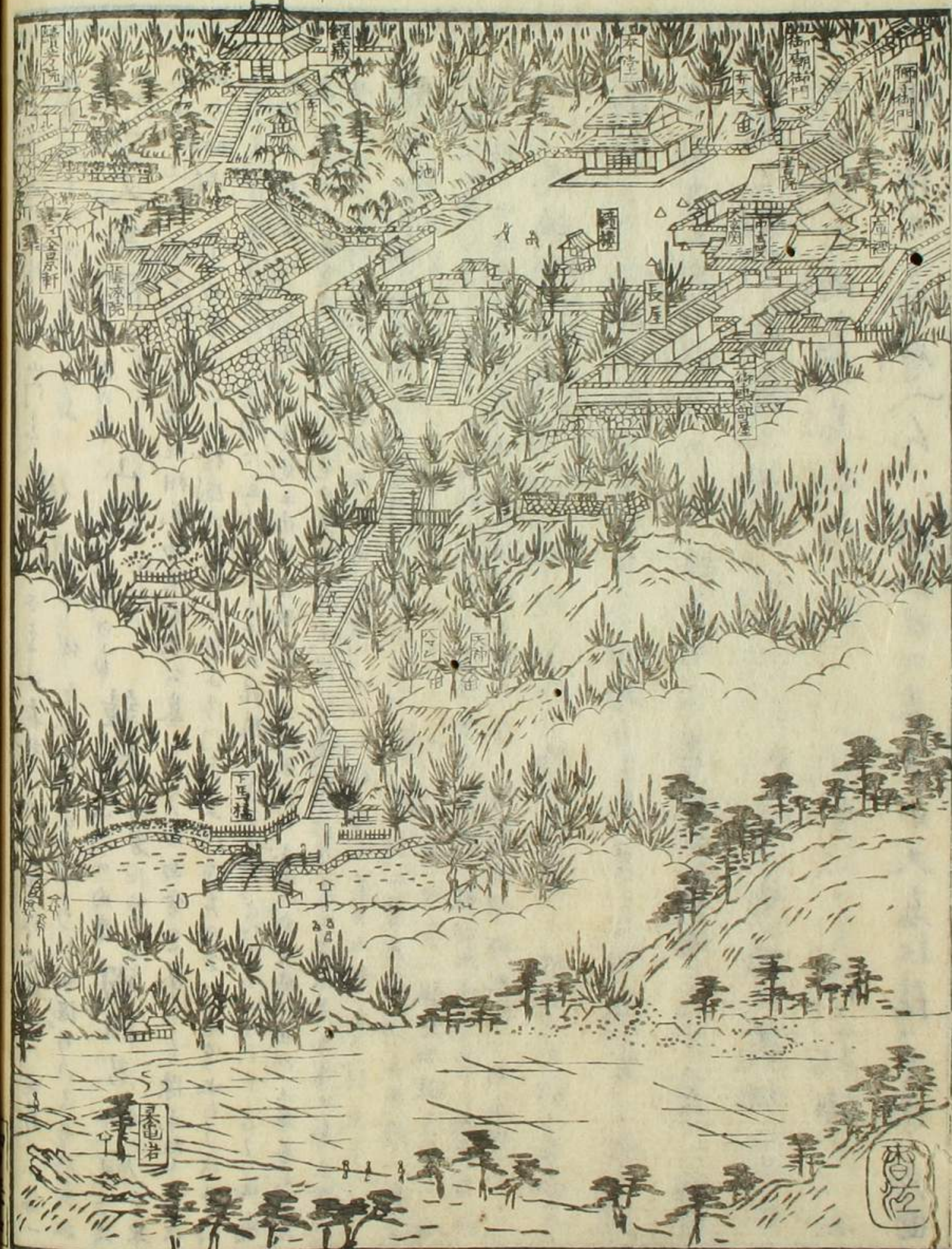
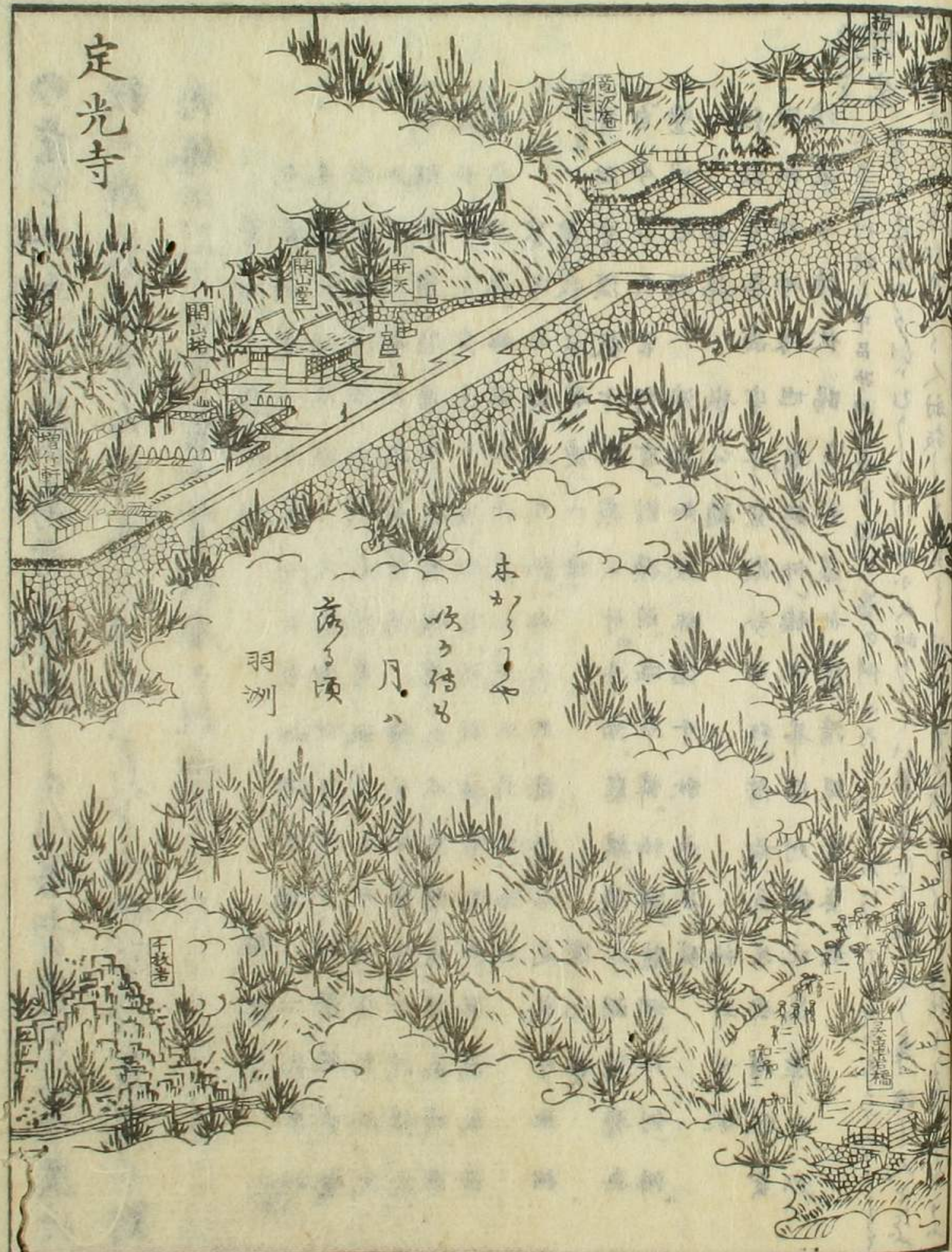
の穴あり大石あり是等の所に川水せられて白玉と稱す

又又山に

下りて筆捨山と稱す東海夜の筆捨山に彷彿する名づく

小おとぬ

終意あり



定光寺



不死又何生
 不生不復死
 生死兩相忘
 奇哉箇童子
 東廬

東廬

見
 岩



世之人
 如夢
 年如
 一
 旦
 之
 元
 文

次信定の孫 清定の子守所に尾張方より向城を構へ日夜攻撃之城

主家次甚雨の夜敵の油断と窺ひく不意小子丑半に付城取

了木戸と亦破り乱れ入る尾兵思ひく大い驚き發せ或はハ

同士討し或は柵を越て逃ゆり因て尾軍の集陣竹村孫七郎

破因金平戸崎平九郎滝山傳三郎ととり五十餘人討死其お

悉く向城を捨て逃去りぬ義元家次が軍功と褒て感状を賜ふ

云見寺に位牌あり長江民部とい

雲見が峯田村の東の三河の国界にあり頂四方の脚をたぐひ一孝にをを

平雅連が少小津まひてつや影ささね杉小つらハ勢田の名はつひて既ハ勢田

の部においれは山にお杉茂る古方のゆゑにわづひま古たそそをををを

三國嶺 田村と片草村の境雲見が峯の北わつて三河の加茂郡美

濃の可見郡に接して頂上小三つの石わつて國界の標と次國中の高

蛇ヶ洲

屈曲溪流碎有声

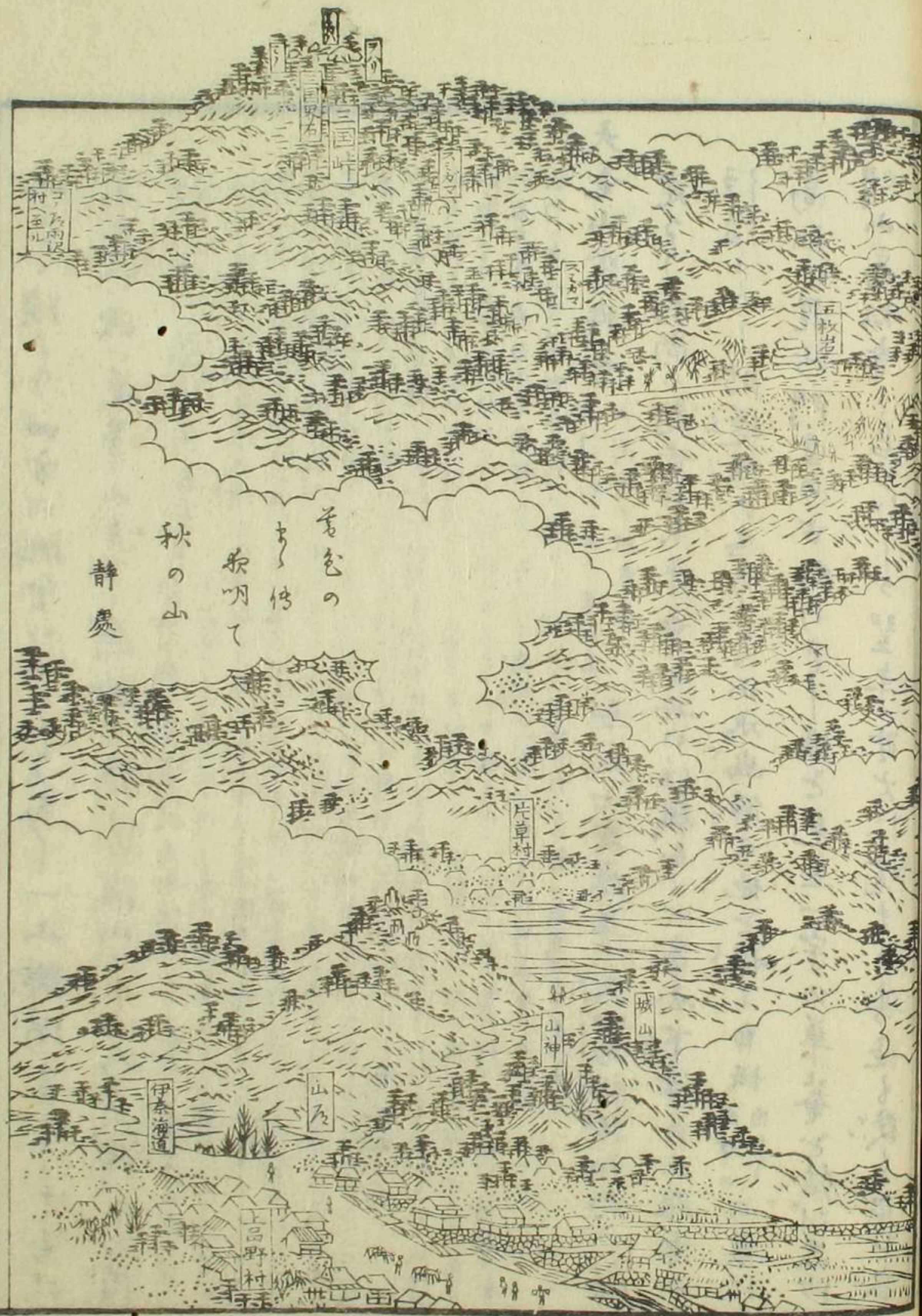
岩橋危處獨徐行

村翁細說當年事

蛇去洲源留此名

加藤清友





首尾の
もつて
秋の山
静處



三國峠
雲見ヶ峯
兼鞍石
谷津
柴州人乃
所見ハ
馬子の
夜に
石ハ有リ
銅根

香江

山ノ石

葛籠岩

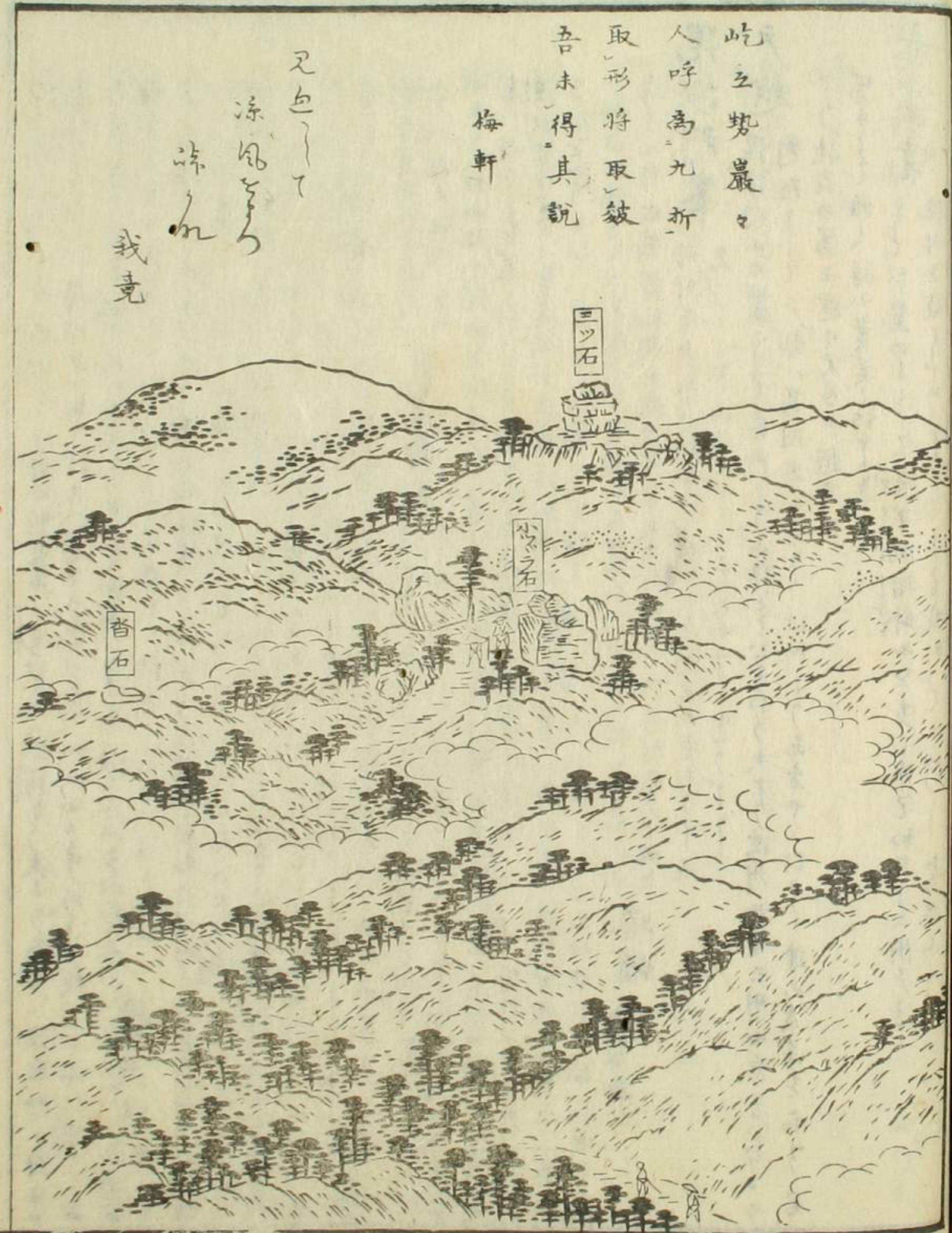


屹立勢巖々
人呼為九折
取形將取鼓
吾未得其說

梅軒

又也
涼風
吟

我竟



うらふ今に... 龍天水 本堂の
性空上座の身漢... 龍天水 本堂の
長福二年戊寅八月天先和尚返... 龍天水 本堂の
二戊子年土月晦日殿前の池... 龍天水 本堂の
秘封して水... 龍天水 本堂の
りて任持... 龍天水 本堂の
代の灵 座禪石 和尚の禪座... 龍天水 本堂の
寺の東の... 龍天水 本堂の
今八幡の社地... 龍天水 本堂の
かあり白山社八幡社と... 龍天水 本堂の
東にあり... 龍天水 本堂の
没収せり... 龍天水 本堂の
古伝と... 龍天水 本堂の
一幅は三幅... 龍天水 本堂の
秀吉公陣羽織... 龍天水 本堂の

寺領 附あり... 秀吉公
満宮神号一幅三社託宣一幅因通妙藏
寺領 附あり... 秀吉公
満宮神号一幅三社託宣一幅因通妙藏

塔頭 大愚軒
寺領 附あり... 秀吉公
満宮神号一幅三社託宣一幅因通妙藏

毘沙門峯 同村雲真寺の山脈... 毘沙門山の堂あり...
戸越 毘沙門山の麓ありて... 毘沙門山の堂あり...
赤津焼 同村雲真寺の山脈... 毘沙門山の堂あり...

大目神社 同村あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天
神... 官社あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天
神... 官社あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天

御守塚あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天
神... 官社あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天

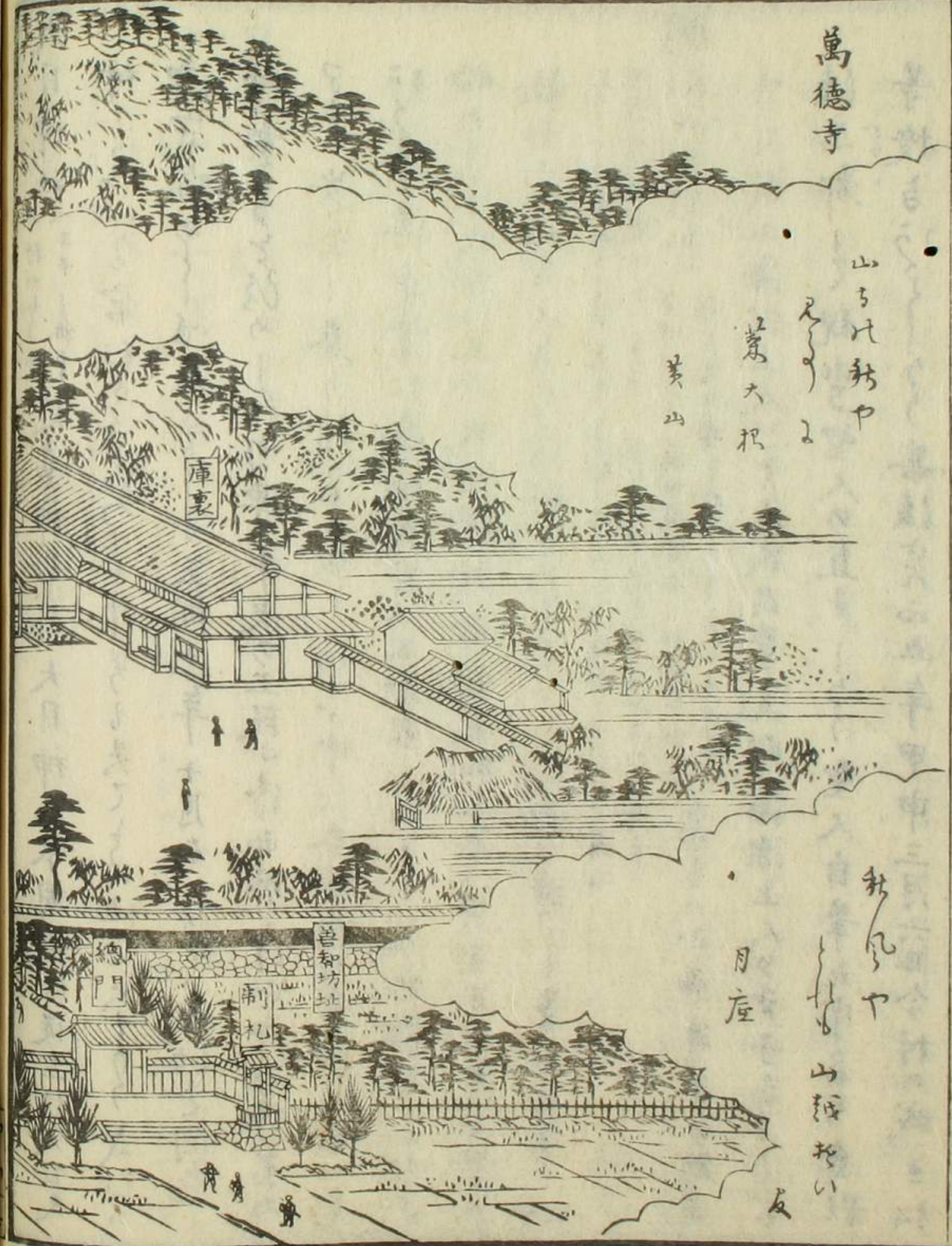
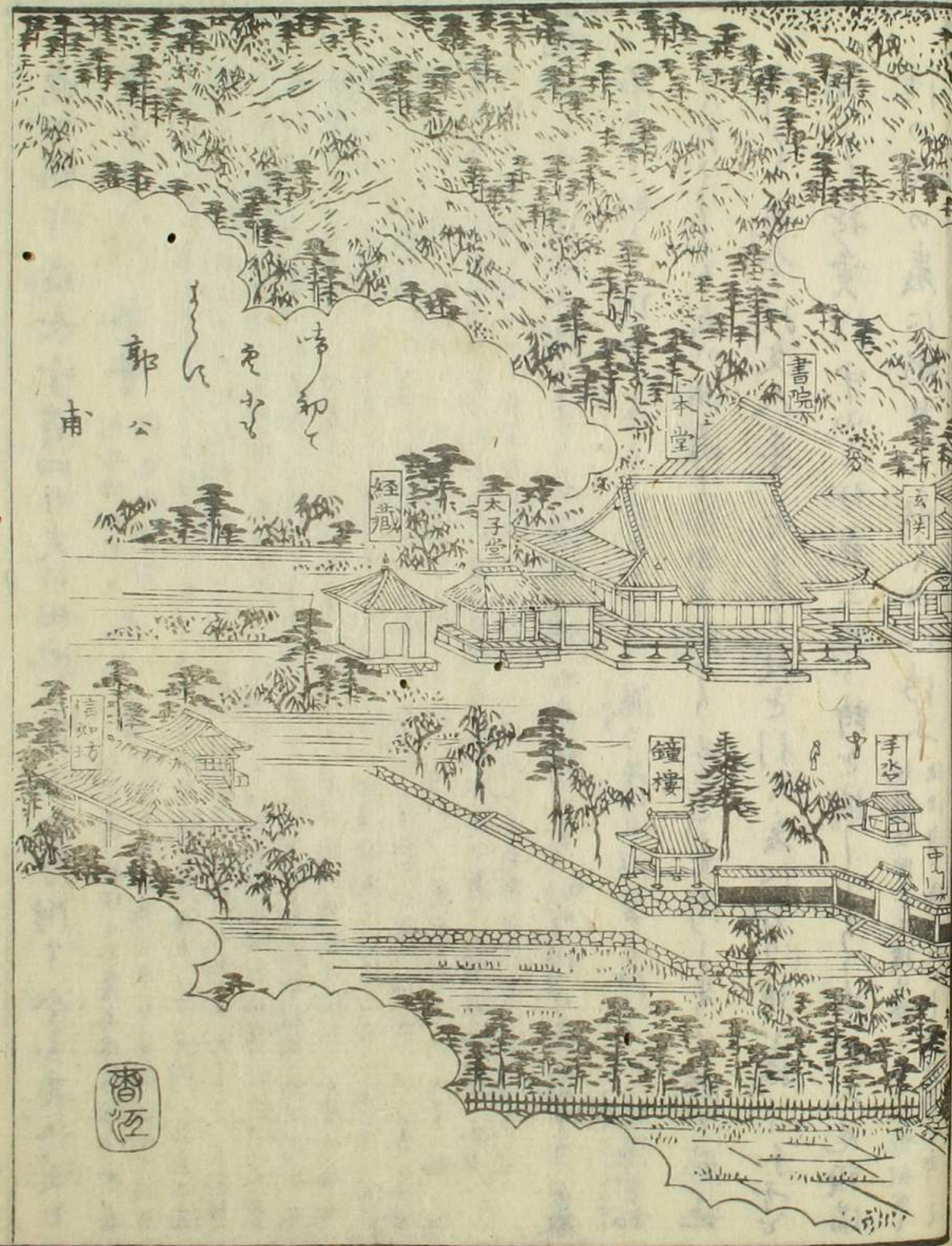
神... 官社あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天
神... 官社あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天

物わりて大目八王子大明神御神前天和三年癸亥正月廿二日祭王
敬白... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天
神... 官社あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天

関尾山万徳寺 同村あり高田宗伊勢一身田専修寺... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天
神... 官社あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天

後京都... 親鸞聖人の直承... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天
神... 官社あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天

等授... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天
神... 官社あり... 延喜神名式小大目神社本國帳に従三位大目天



原下徳守廣長壹貫四百文の田地と尚ちに寄附す今も其終文と

寺室阿弥陀如来立像鳥佛師作太子堂火のつれを家火中を飛去後林の掛の

寺室聖徳太子傳記五卷奥書曰右此傳者井田坊山門不出之祕書也故四天王寺

有誓約之儀寫了于時寬正三年壬午孟夏吉日華者沙弥元恭誌之尾州山田郡内能津
保上村於太子堂寄進之寬正五年甲申三月六日松原下徳守廣長しり。太子繪傳土佐光
信筆り。四幅。中世二幅。新画。補上。古鐘の切太子守屋し。合戦の此用
平下徳守證文。同陣羽織。同位牌。陽常院康貞三安居士裏。尾州今村城主松原
下徳守廣長文明十四壬寅五月十五日。其の古書。古津水。多。

竜洲山口川の上流。水源三州の茂郡より。おが川のあるより。巖

石。川中。大いせり。漲り。水勢。け。浪雷。初
した。活潑。玉を。教。そと。童。頗。勝地
あり。古今。文人。杖を。引。に。詩と。感。和。亦と
詠。控。次。中。伊藤。三橋。詩と。撰。門人。尾頭。備
滝の側。巖に。彫。付。永く。世に。傳。伊藤。公照。字。子。續。三橋。号。静。觀。室。秋。下。藤。町。住。俗。姓。三。郎。

其詩。龍洲。躍。竜。今。何。遷。萬。古。蒼。但有。龍洲と
大書。其。例。不。細。三。橋。先生。愛。龍洲。勝。景。嘗。謂。廣。居。源
倫。曰。不。得。題。詩。龍洲。巖。余。常。憾。之。無。幾。先。生。物。故。至。今。二十。余。年
廣。居。尾。頭。備。追。先。生。之。志。就。岩。以。八。分。書。題。詩。友。人。蕙。樓。逸。老。思
田。仲。任。書。其。事。云。文。化。十。年。竜。次。癸。酉。首。夏。八。日。の。八。十三。字。と。記
た。磨。自然。石。の。面。彫。付。と。深。淵。を。隔。て。守。由。と。大。字。鮮。明。を
尾。頭。備。が。書。一。紙。と。得。つ。る。が。切。竜。洲。の。記。事。う。多。年。の。恨。一。時。に。晴。水。く。祕。窟。せ。り
今。彼。一。紙。か。り。て。記。事。と。る。す。は。後。は。地。が。雅。人。は。夫。と。勢。へ。て。巖。上。の。記。事。に。對。照。せ。り
補。ひ。あ。り。と。其。後。秦。滄。浪。渚。子。に。此。地。小。来。り。文。章。を。書。く。形。容。い

夏。秋。間。每。黑。雲。起。東。北。山。驟。雨。與。之。而。至。余。神。未。嘗
不。飛。于。竜。洲。廣。居。山。人。又。能。說。其。勝。曰。出。赤。津。未。二

より古體の書と善。詩と。好。事。の。人。と。は。竜。洲。の。奇。觀。を。記。す。に
あり。未。り。て。抄。ふ。は。數。上。の。詩。を。數。人。筆。と。し。て。生。前。に。其。志。と。果。て。物。故。せ。り
と。門。人。尾。頭。中。書。其。志。と。是。せん。と。文。化。十。年。癸。酉。の。夏。思。ひ。ま。て。先。生。の。記。事。の。後
松。山。と。つ。つ。と。後。り。夫。より。赤。津。の。医。師。作。周。依。と。し。て。心。と。今。中。書。と。共。に。官。許。と。傳
日。あり。以。て。又。夫。の。命。深。淵。の。上。に。是。代。と。稱。せ。り。尾。頭。中。書。の。巖。上。の。三。橋。が。詩。四。言。四。句
と。隸。書。と。書。又。思。田。仲。任。の。記。事。と。小。字。に。ま。り。て。石。工。の。彫。せ。り。凡。一。十。月。と。り。り。て
成。就。其。詩。龍。洲。躍。竜。今。何。遷。萬。古。蒼。但有。龍洲と
大書。其。例。不。細。三。橋。先生。愛。龍洲。勝。景。嘗。謂。廣。居。源
倫。曰。不。得。題。詩。龍洲。巖。余。常。憾。之。無。幾。先。生。物。故。至。今。二十。余。年
廣。居。尾。頭。備。追。先。生。之。志。就。岩。以。八。分。書。題。詩。友。人。蕙。樓。逸。老。思
田。仲。任。書。其。事。云。文。化。十。年。竜。次。癸。酉。首。夏。八。日。の。八。十三。字。と。記
た。磨。自然。石。の。面。彫。付。と。深。淵。を。隔。て。守。由。と。大。字。鮮。明。を
尾。頭。備。が。書。一。紙。と。得。つ。る。が。切。竜。洲。の。記。事。う。多。年。の。恨。一。時。に。晴。水。く。祕。窟。せ。り
今。彼。一。紙。か。り。て。記。事。と。る。す。は。後。は。地。が。雅。人。は。夫。と。勢。へ。て。巖。上。の。記。事。に。對。照。せ。り
補。ひ。あ。り。と。其。後。秦。滄。浪。渚。子。に。此。地。小。来。り。文。章。を。書。く。形。容。い



龍淵
龍淵の源
龍淵の源
龍淵の源
龍淵の源
龍淵の源
龍淵の源
龍淵の源
龍淵の源
龍淵の源



龍淵

龍淵

屏風の滝

飛瀑與松韻幽襟
被襲涼辭賦飛瀑
下身入白雲郷

釋関尾



此滝ハ山口川の支流
ありて重閣より北の方
東へ入る小流をまゝの
りハ高井院谷中にて
怡屏風と云ふなり
まゝに奇岩怪石の万を
奔流せしハ別滝の中流
や上りの右折し
所に滝ありて飛流する
まゝ又目ざし

の糸小尾張國所造甕八口缶五十口管坏四十口甕八口瓮十口短
 女坏三十三口酒甕八口匣十六口片坏四十口陶臼八口饒甕八口高盤
 四十口埴十二口都婆波十二口酒盞十二口酒缶八口とある一日
 本後紀の殘缺に弘仁六年正月丁丑五造瓷器生尾張國山田
 郡人三人部乙磨等三人傳習成業准雜生聽出身と云
 弘仁式小應供神御由加物所司具注所須物類預前申官八月
 上旬差宮内省史生遣五箇之國造河内和泉一人尾張參河一
 人備前一人到國先後而後造作焉とある日
物加物といふは雜器の事なり 延喜民部式の年并雜器此
その由加物といふは延喜式
の以來に雜器者日神語
 うらに尾張國瓷器大椀五口徑各九寸五分 中椀五口徑各七寸 茶小椀徑各六寸 椀
 廿口徑各五寸 蓋五口徑各四寸七分 中擊子十口徑各五寸 小擊子五口徑各四寸五分 花盤十
 口徑各五寸五分 花形盥坏十口徑各二寸 甕十口大四寸 小六寸 とあるは、この地にて
 焼く定うありて日本後紀に云ふ三人部乙磨等三

人山田郡の人とあるは此の地よりして焼くを云ふは、此の地
 弘仁年中より藤四郎が地小来りて貞應年中まで凡
 四百餘年の星を焼くは、友部郡もいささか古電跡を
 どのありしと云ふは、當所の土の磁器小く今も其をさして焼
 初しとのありて陶工の元祖加藤四郎を春夢の傳に次かきしを色に 元来當所の磁器は
 ひろく名も希代の名物なりと焼くは、南京松原の
 陶器の其工夫を得たりと、享和元年頃よりして焼くは、
津金胤臣の工夫は、陶工氏吉らの者
焼方の秘製と練熟す委くは、 次第に其業委くより、餘人も
 多く傳へて今も深付窯多くありむりよりの本業は陶器の
 まるく南原様高藤様も公用の品物となりて、將軍家借紳
 家にも御献進ありて、色々と御國産の魁品となりて、
 陶工元祖藤四郎の傳 藤四郎は、加藤四郎左衛門の略稱にて父は
 藤原元安 元安先祖は、福知貞と云ふ大和國城下郡諸輪庄道陰村に住み、後四郎と
は所より、誕生は元安をりて後に備前國松等尾に死せり

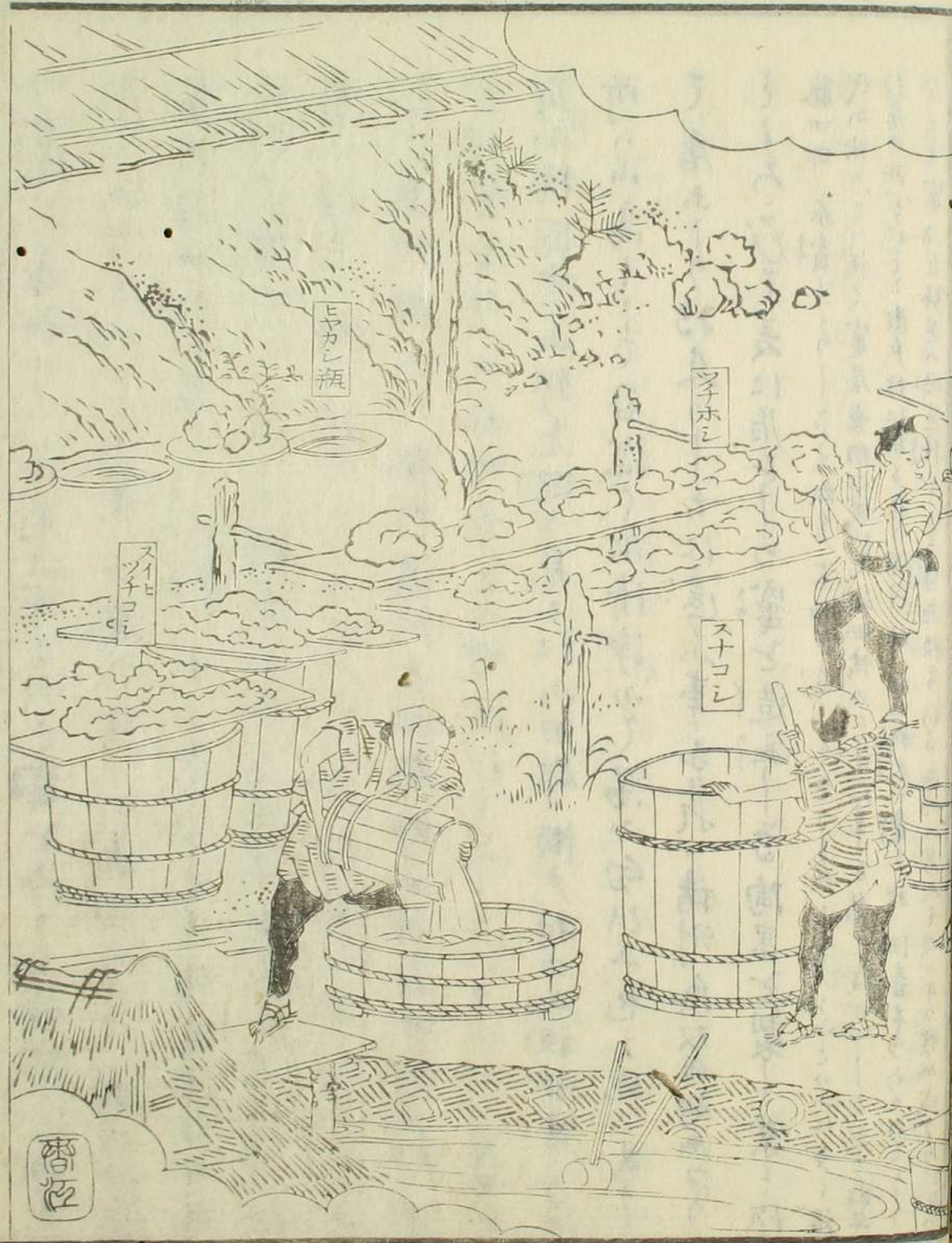
母ハ平道風ガ女ナリ 山城国深草の人 成人の後久我大納言通親卿ハ仕ヘ
 五位の諸太夫トシテ名ト景正トシテ春慶 或ハ俊慶トシテハ別号
 ナリ深草の里ハ母の所ナリ所ハ伊豫トシテ土器ト製シ試
 行ハ其業ニ委シテ其況甚ク困ルヲ知リ後只志
 出渴等ト造ルノモ高麗南京其外の焼物を集メテ其
 斯ル器物を製セント朝暮心を碎クシテ其傳を得ル事
 ナリト患フニ越ノ永平寺開山道元禪師ハ通親ノ二男
 ナリトシテ後堀河帝の貞應二年入宋の志有ルトシテ終ハ
 伊人ハ隨テ入宋トシ 一説に後四郎トシテ以前清公を經田一苗ハ伊人の來
 伊田密院に志シテ未セテ其後四郎トシテ伊田に傳ヒテ支リ
 伊田トシテ入宋の志有ルトシテ後者トシテ入宋セリト云 け時宋朝ハ寧
 宗帝嘉定十六年ナリ夫より彼地ハ居ルニ六年のち南京北
 京其外國トシテ經田一陶器製作の秘奥トシテ又禪師ハ隨
 テ安貞二年の春歸朝ナリ此時廿六歳ナリナリテ肥後國川尻

蓋聞 順德帝之世有加藤四郎春慶者尾州
 智多郡人也武吉春日井郡瀬戸村人又言泉州
 界氏 皇都之郊深州里産其詳不可得而識矣
 好造陶器常限西土陶法未盡傳焉貞應中會釋
 道元之來春慶以為類且遂隨行遊宋五年究陶
 人之事歸奉為良工遷移數十處遍尾濃及京畿
 諸州而莫可適意居瀬戸村親祖母懷之地
 厥土粘弗散聖弗沙且采薪之鏡異于他邦謂無
 若瀬戸之樂益弘其道乃難髮入道有終焉之志
 其村社中手造獅子簾鎮一隻屋在距今五百有
 餘歲苟有陶器出春慶手則直數百金大率為王
 公貴人祕庫之物夫善歌者使人續其聲善作者
 使人紹其功春慶之緒業其庶幾乎君子之道與
 尾濃之地以陶衣食以加藤姓者皆是餘裔而斷
 續不一也獨在瀬戸見為陶長 大藩給俸加藤
 春曉者世不廢業九諸陶氏所造出天小巨萬杯
 槃之類乃日用必需之物阜通四方東過東奧西
 踰京畿湖南暨于摠攝陶器曰瀬戸物遠矣哉
 春慶之績贊曰环治一陶群生得計春慶之業克
 為可繼後人衣食之數百家百世引之無替以給
 旦夕之用者弗德之嚴

安永八年己亥九月十五日 人見春



陶工加藤景登所藏
 古人東南翁所筆 藤田月像之遺圖
 春江縮摹



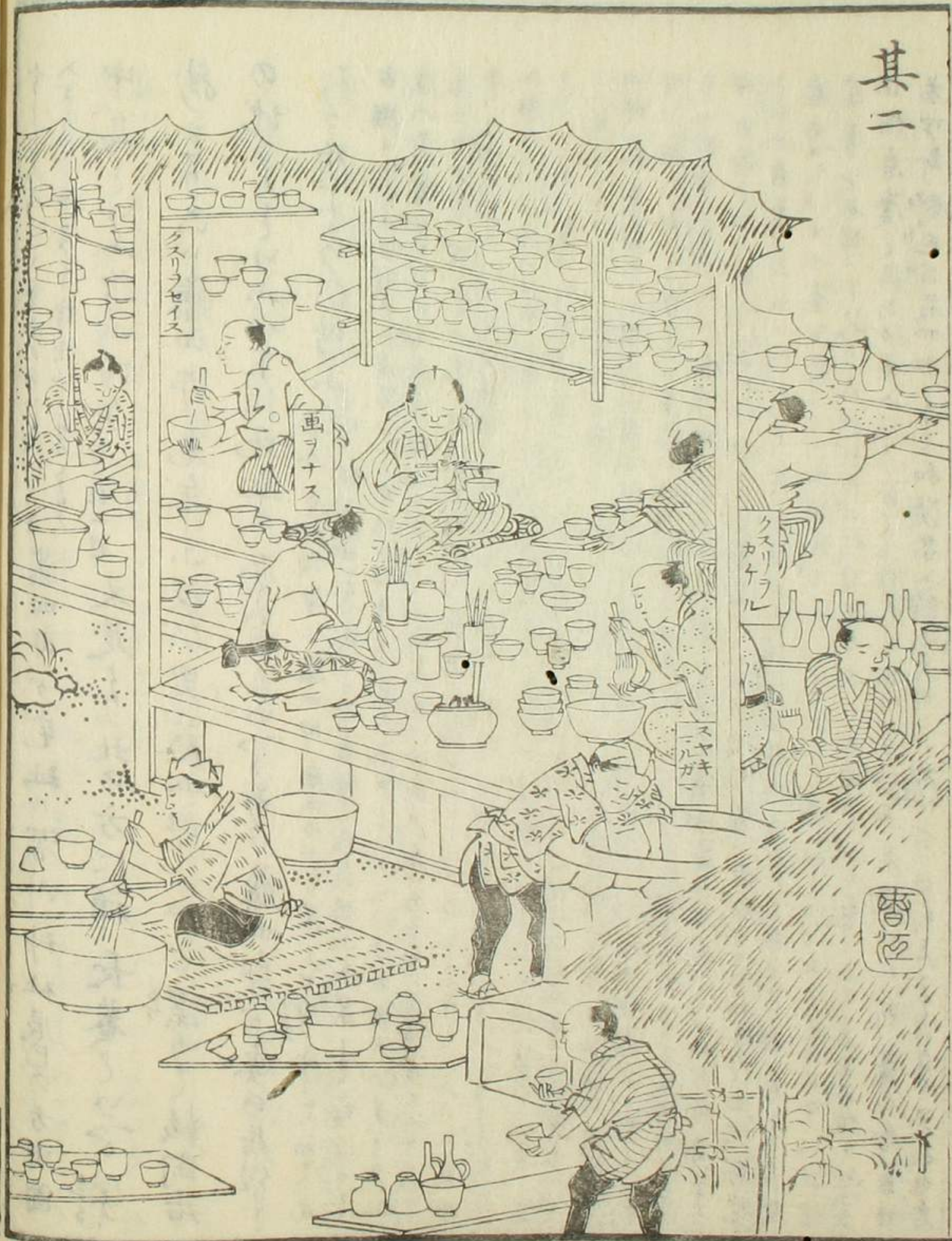
瀬戸陶器職場之一

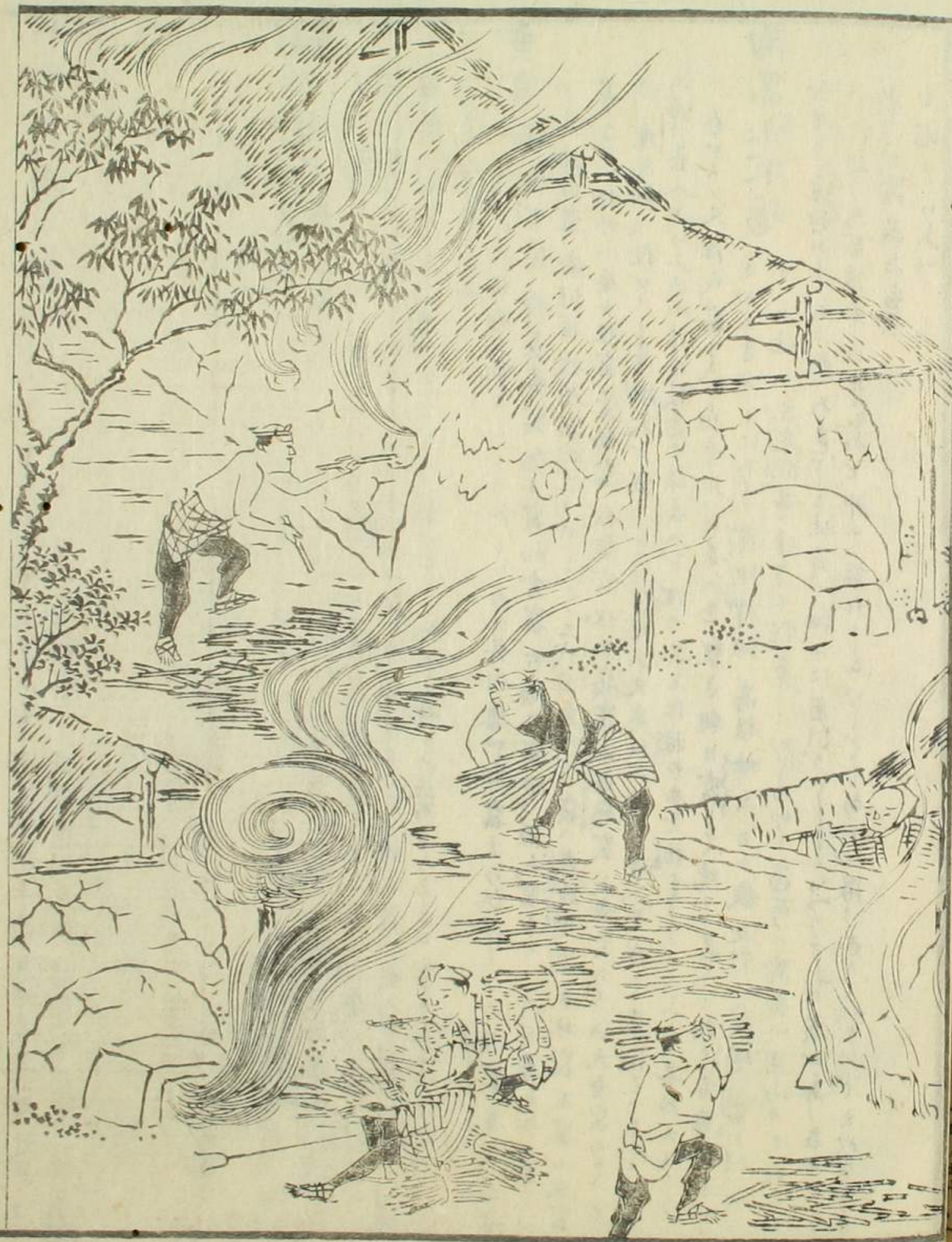
本業深竹焼の二様あり
 職場のさび・大田小異
 むろ・愛平・古人石筆の
 図小基を混して画く





其二





其三

焚休む

かきよのちや

たをれ月

阜池

小竈を

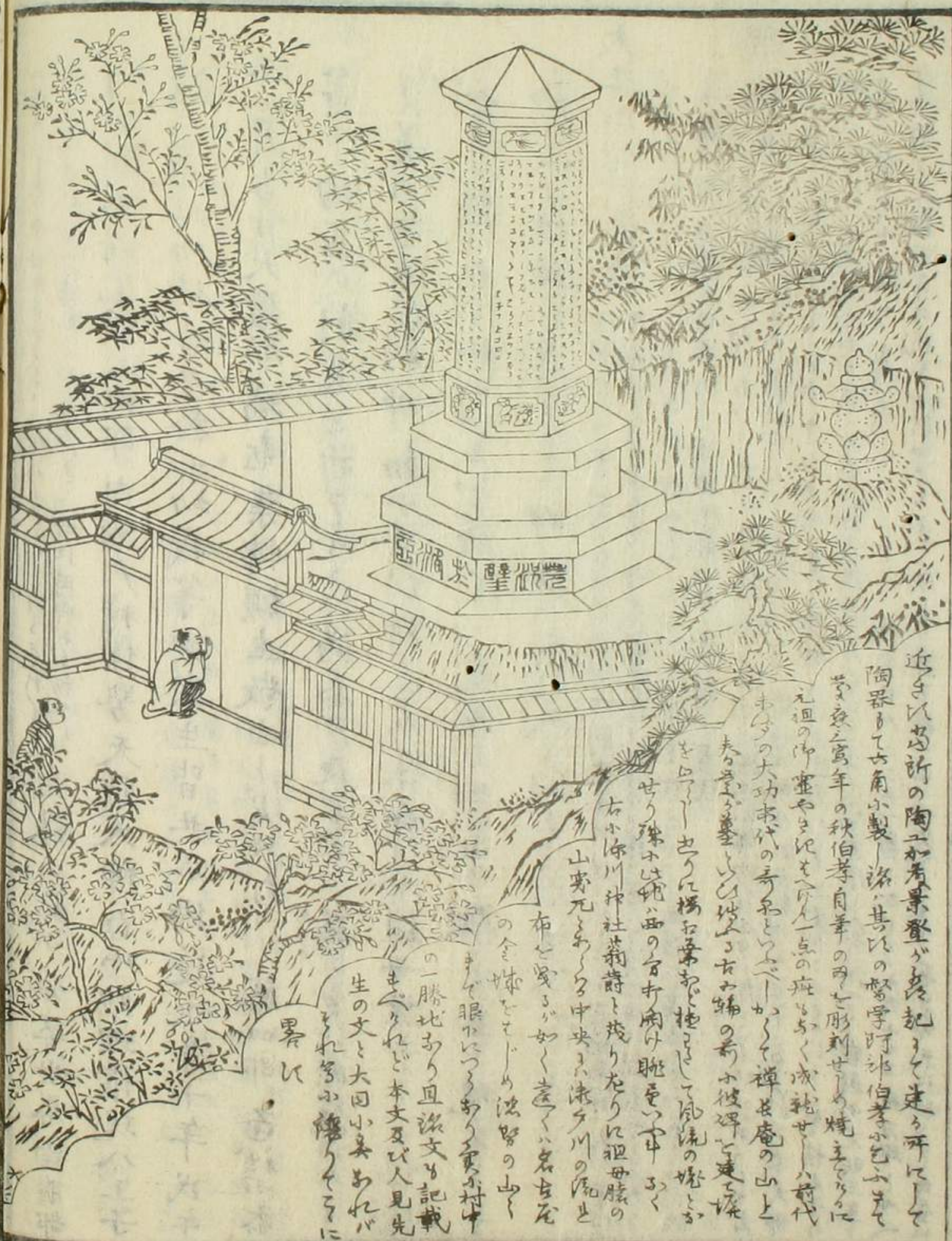
まのゑと

焼てえむ

竹有

香

陶祖加藤春慶碑銘



近き以て古所の陶工が景登が長記して建つ所にして
 陶器もて六角小製一器其以の習字阿部伯孝が包ふま
 ち之を寫年の秋伯孝自筆の司と彫刻せしめ焼まらんに
 元祖の御靈を祀るに一点の疵もなく成神せしむ前代
 未だの大功未代の奇名といふ一かくて禪長庵の山と
 大なる墓といひ地ふ古の跡の奇小彼碑に建つ所
 をいふ一かくて横お弟お弟をいふ一かくて風流の境とい
 せり殊には西の古打肉の眺をいふ中ふく
 右小川神社社務所と残りたりに祖母膝の
 山麓元とあり中中央の深ク川の流止
 布と受りかくて遠く名を花
 の金峰とあり深智の山
 まて眼かいてあり其村中
 の一勝地あり且漢文も記載
 せりれど本文及び人見先
 生の文と大同小異あれは
 是れをいふ傳りてそに
 異は

吳物分て、當院主ハ宝曆年中より發して、當代まで、三世と稱するが、遠州秋葉山、月森の
雅行と勅じ、敗小安政の今にあり、千作左のふとを、及び秋葉山の空前に、月森の奉願ありて、世
人わたりて、ある所なり

尾張名所圖會後編卷之四畢



